

第一 獨逸の政局と中央黨

一 小黨分立のドイツ政界

史家は云ふ、ドイツ帝國の創建によつて、從來ドイツの内政上の難關であつた、各邦國間の不統一は曲りなりにもどうにかその形を失つたのであるが、その代りに更に又新たなる不統一が現出した。それは邦國の代りに政黨なるものが出現したことである。ドイツに於ける政黨の分立は、まことに甚だしいものであつて、建國當初の議會から既に大小十に近き政黨を算してゐたのであつた。しかも、その間に絶對多數黨なるものがなく、政黨操縦には甚だ困難なる状態に於てあつた。

その結果として、ドイツの議會政治なるものは、極めて變態的な發達を遂げ、イギリスやアメリカの議會に見るが如き、二大政黨對立にて、その勢力の消長によりて、整然政權の受授を行ふと云ふの如きことはなく、又、フランスの議會に於けるが如く、比較的有力なる政黨又は政黨の聯合が存立すると云ふことも見ることが出来なかつた。ドイツ政府なるものは、常に超然内閣であつて、議會の意嚮如何に依りて、容易にその政權の移動を決すると云ふことは困難であつて、在野黨が天下の權力を

掌握すると云ふが如きことは、絶體に不可能なることであつた。而して、政府は政略上、政黨間の不統一を期するために、政黨分裂の方策を講じ、努めて小黨分立を期したのであつた。

小黨分立の結果として、各政黨の保持する政見の間に不統一が生じ、Aの問題に就いては甲乙丙三黨の間に了解が成立しても、Bの問題に關しては、乙丙の了解が成らず、Cの問題に於ては、甲乙がうまく行かないと云ふ風に、各政黨間の交渉妥協と云ふことが極めて六ヶ敷いものであつた。しかも、この不統一の現象は、時代の進展、産業の發達に伴ひ社會生活の複雑の度を加へると共に、政黨自體の上にも性質上の變化を誘致して、政黨間の統一は益々困難になつて來たのであつた。

と云ふのは、從來の政黨なるものが、多く思想上感情上の信條に基く主義主張なるものを楯として立つて來たのであるが、それが社會生活の狀態の轉化と共に、現實生活に基づく打算が主觀に轉じて來たがために、從來自由主義のために戦つて來た自由黨も、社會主義のために戦つて來た社會黨も保守主義のために戦つた保守黨も、みなそれ／＼に主義そのものよりも、生活現象に於て同一利害の關係に於てある。社會上のある階級又はある衆團そのもの、利害を擁護することが、主義そのものを固守することが急務となつて來た。

こゝに於てか、自由黨は中等階級の商工業者の利益の擁護のために、又、從來秩序維持と云ふが如

き美しき標榜を掲げて来た保守黨は、貴族大地主の利益の擁護のために、といふ風に、その戦の目的が現實生活の上の打算に落ちて来た。即ち、政治そのものが現實生活に接近して来たのである。一面から之を云へば、ドイツに起つた産業革命が、政黨の目標點を變化せしめ、それに伴つて性質にも變化が生じ、政治そのもの、趨勢を一變せしめたと云ふべきである。それがために、従来一黨として大きくまとまつてゐた政黨も、主義主張を守ると云ふことよりも、生活上の利益も擁護と云ふことが主となつて来たために、その直面する階級の相違から分裂すると云ふやうな現象も生じ、一方には社會黨の如く、主義理想萬能を放擲して、現實生活に直面してゐる労働者階級擁護といふ當面の實際問題に腐心するやうに、明らかに理想と實際との妥協を指示する現象も生じて来た。斯くしてドイツの政黨なるものは、分り安く云へば職業別に分裂するやうになつて来て、小黨分立の状態は日に月に甚だしくなると云ふ有様であつた。

ドイツの政黨發達史を見る上には、今一つ見逃すべからざる大切なことがある。それはビスマルクの信條である。彼は最初からドイツの統一と興隆とは一にプロシヤの強大に俟つより外にないものであると確信し、且つ之を堂々と公言して憚らなかつた。彼は又容易に輿論なるものを認めず、自己の信條によつて政治を行つた。彼の有名なる鐵血演説の中にも、此の輿論なるものを冷笑し去つた。毫

もこれに耳を傾けることはなかつた。彼は即ち云ふ「演説や多數決などに依りて、時代の大問題を決することは出来るものではない。一八四八年の失敗は、全くこゝに原因してゐるのである。問題を決するものは、たゞ鐵と血あるのみである」と、彼の前には議會など全く眼中になかつた。この專制的な獨裁的なやり方が、ドイツの政黨發展の上に、大なる影響を與へてゐることは、云ふまでもない。(小黨分立の策を講じたのも、亦彼ビスマルクであつた。彼は之等の政黨間に相抗争せしめ、之を巧みに操縦してその間に漁夫の利を占めつゝあつたのである)

二 帝政時代のドイツ議會

一八七一年のドイツの第一議會に於て、議席を得た政黨の數は既に九を算してゐた。政黨の數は多いが、その中に於て、政治上有意義なる位置にあるものは、保守黨、帝國黨、國民自由黨、中央黨、進歩黨の五にして、この外に僅か二人の代議士を出してゐるに過ぎなかつたが、注目に値するものは社會黨であつた。

此の状態は世界大戰の始まるまで續き、その間大きな變化として見るべきものは、社會黨の發達である。社會黨はその出現の當初から激しい壓迫を受けたのであつたが、ドイツに於ける産業の發達、

即ち、産業革命の漸進的完成と共に、社會の狀況は社會黨の發達を阻止することが出来ず、ビスマルクの社會黨鎮壓法も何等効果を收むることが出来なかつた。
今ドイツ議會頭初に於ける黨勢一般を數字に依つて見ると、左の通りである。

黨名	一八七〇年	一九一二年
保守黨	五六人	四五人
帝國黨	三九人	一四人
農民黨	〇人	一五人
國民自由黨	一二〇人	四五人
進歩黨	四八人	四四人
中央黨	六三人	九一人
社會黨	二人	一一〇人
ポーランド黨	一四人	一八人
アルサスローレン黨	一五人(一八七四年の選舉)	九人
シユレスウイヒ黨	一人	一人

グループ黨

四人

五人

尙之等の政黨の適合性質如何を簡單に列記しておきたいと思ふ。

保守黨、純然たるプロシヤ黨であつて、大地主體となつてゐる。帝政主義を奉じ、最も保守的氣分を持つてゐた。

帝國黨、保守黨よりはやゝ自由な思想を有し、商工業者、シレジャ地方の大地主及び官吏を含んでゐる。自由保守黨とも呼ばれてゐるもので、帝國主義を奉じてゐた。

農民黨、農民より成り、その成立の原因は關稅の低減に基づく反抗より起つたものである。第一議會の際にはかゝる政黨がなく、關稅問題が起るに及んで出現したものである。最初は政府に反對したが、これは關稅に對してのみで、本來の性質上愛國的であり保守的であるところから、結局政府黨となつた。

國民自由黨、ビスマルクを擔ぎ、その隠然たる首領を以て仰いでゐた政黨で、全國の中産級の商工業者及び地主から成つてゐた。此の黨派は元來進歩黨の一部であつて、進歩黨が分裂した結果生れ出た政黨である。

進歩黨、國民自由黨の本黨であるが、一派がビスマルクに反對したところから遂に分裂し一派は國

民自由黨となり一派は進歩黨として孤城を守るやうになつた。自由貿易主義を奉じ、議會政治を主張し、ビスマルクには常に反對してゐた。

中央黨。カトリック教徒から成るもので、その成立の當初に於て激しくビスマルクと衝突したが、その問題の解決後は常に中立的態度を執つてゐる。

社會黨。最初二派に分れてゐたが、一八七四年の總選舉後合體して一黨となつた。労働者を中心とするもので、社會主義を奉ずること、その名の通りである。

ポーランド黨。ポーゼン選出の代議士の一團であつて、ポーランド人の利益を代表してゐた。常に政府に反對してゐたことは、服屬民であつた爲め自然の數である。

アルサスローレン黨。アルサスローレン州選出の代議士の一團で、同地方民の利益を代表し、常に政府に反對してゐた。

シユレスウイヒ黨。シユレスウイヒ選出の代議士で、同地方のデンマルク人の利益を代表し、常に政府に反對してゐた。

ゲルフ黨。ハンノフア選出の代議士で、昔からのローマ法王尊崇黨である。常に中央黨と行動を共にし、中央黨の分派と稱せられてゐた。

帝政時代に於ける政黨の狀態は、大體以上の如くであるが、此の外に議會に議席を有せざる政黨が多數あつて、それ等が又各自異つた政見を抱持し野にそれ々の政治運動を試みると云ふ風であつた。これ等所謂目に見えぬ政黨なるものも合算すれば、戦前に於けるドイツの政黨なるものは、二十餘派に分れてゐるのである。

斯くの如く小黨分立の狀態にあつたドイツ議會なるものが、その議場の光景如何かと云へば、これ又極めて平凡悠長なるもので、所謂封建の情性が抜けず、殿様氣質自分體裁儀禮形式が至上の事に屬してをたつた。議會の開會閉會には必ずすカイゼルこれに君臨し、議員は之に向つて莊嚴なる敬禮を行ふことが、最高の儀禮であつた。議事の討論に方つては、カイゼルに對して批評の言葉を挟むか、甚だしきはカイゼルの名を呼んですら、議長はこれを以て議院の習慣に違反するものなりとして、その發言を禁止した。憲法によれば、議員がカイゼルの行爲を批評するを禁ぜざるのみならず、正文を掲げてこれを許容してあつたのである。しかも保守黨とその同盟者とは、何時の間にか斯の如き習慣を作つてしまつたのである。社會黨員又は急進派の者が、時々火の如き辯を弄して新思想を高唱する外は、議院内に於て「國民の權利」と云ふが如き語をすら聽くことが出来なかつたのである。さればこそ、社會黨の如きは人間以外に取扱はれ、全く人面にして獸心なるものとして認められたのであつ

た。カイゼルは彼等社會黨員を以て「人間と云ふ辭をすら冠する能はざるもの」としたのである。けれども、政府が既に超然内閣にして議會の外に立ち、議會は斯の如く儀禮形式一點張りにして、國民の輿論なるものが、政治の上に反映せず、國民と政治との間の没交渉が甚しくなり、一面には産業革命に伴ふ社會狀態の變化に依つて、人心の政治に對する觀念が變り來るに連れて、國民の信念は漸次議會から去つたのであつた。此の時に方つて世界大戰が勃發したが、その結果は革命となつて帝政が倒れて共和制の確立となつた。共和憲法の制定と共に、ドイツ議會の面目も一新した。政黨間には種々なる分散離合が行はれ、黨勢の一般面目も亦全く新たになつてしまつたのである。これを帝政時代の政黨と今日の政黨とを對比して考へる時、政黨そのものの性質の變化の更に甚だしきものあるを認めずにはゐられない。

三 自動式比例代表制

ドイツ共和國の新議會は、一九二〇年四月制定の新選舉法に依つて、選出せられたるものである。此の選舉法は、その後少く改正せられたが、大した差異はない。自動的比例代表法と稱せられるもので、今日に於ては最も進歩したるものと云はれてゐる。これに依りて選舉權を有する者は、滿二十

歳以上の男女子であつて一般普通選舉法に依るものである。

ドイツの選舉區なるものは三十五區に分たれてゐる。けれども選出さるべき議員の數は之を定めてゐない。つまり議會の議員には定員なるものがないのである。それは投票數に依つて議員數を決する爲であつて、投票數の多い場合には議員の數も多くなり、少い場合には議員數も少くなるのである。その投票なるものは、對人投票にあらずして、黨派に向つて投票するものである。而して、その投票數六萬票について一人の代議士を出すことになつてゐる。今これを今少し明瞭にするために、左に選舉法の大體を述べて見る。

前に言つた通り選舉區は二十五區あるが、此の中東部プロシヤ、上部シレシヤの二區を除く三十三區に於ては、別に法律の定むるところに依りて、選舉區聯合を構成することが出来る。選舉區聯合は十五あるが、これは選舉に當りて、各政黨が自らの選舉の策戦上、普通選舉區を取るか、聯合選舉區を取るか、これを決定しておく必要がある。此の外に便宜上今一つの選舉區がある。これは餘剩投票の處理の爲めに設けたもので、普通之を國選舉區と稱してゐる。故に外 觀から見たドイツの選舉區なるものは三種あることになる。

選舉區に次いで知らねばならぬことは、候補者名簿である。候補者名簿は各政黨に於て之を作成す

るものであるが、その作成に當りては二様の名簿を作らねばならぬ。その一は區候補者名簿（又は區聯合候補者名簿）であつて、その二は國候補者名簿である。名簿に列記さるべき候補者の姓名は、當選に依つて拔擢せらるべき順序でなければならぬ。つまり上位の者から順々に當選資格があるのであつて、之は各黨に於て定めるものである。區候補者名簿（又は區聯合候補者名簿）と國候補者名簿との差異は、その候補者の順位の差である。これは選舉策戦上非常に興味あるものであつて、ドイツの選舉法の妙味はこゝにある。けれども今こゝに詳細にこれを述べてゐる邊がないから、他の機會に譲ることにする。

選舉區聯合と國選舉區とは、投票配分の必要上に設けられた、法律上の區劃であつて、地理上の區劃ではないのであるから、選舉を行ふ場合には、區選舉區と云ふ地理上實際上の選舉區に於て行はれることは云ふまでもない。選舉の方法に、黨名を印刷せる選舉用紙に、自己の欲する黨派の名を見出して、それに十字又は圓等の或しるしをつけて投票するのである。投票が終つた場合、これを各黨派に分類してその數を決定する。その數字の中から六萬票について一人づつ、候補者名簿に依りて當選者を決定する。その決定した當選者が區候補名簿から出るか、國候補名簿から出るか、その何れに決定するかは、自黨内當選者の顔觸に依りて按配しなければならぬ。

六萬票について一人づつ、抜いて、なほ餘剰の投票が出た場合にはこれを國選舉區に廻附する。此の廻附されたる投票が、他の區から廻附されたるものと合して、六萬票に達すれば、更に又一人の當選者を出すことが出来る。而して、斯くしてもなほ餘分投票が出た場合には、最後の三萬票以上に對して一人の當選者を出すことが出来る。こゝに注意しておきたいことがある。それは一つの選舉區に於て、六萬票以下の投票を得た場合、その政黨は一人の當選者を出し得ないことは云ふまでもないが、此の場合、この投票を國選舉區に廻附し得るかと言へば、それは出来ないことになつてゐる。一人でも當選者を出せばその當選者を出した區選舉區の餘剰投票は、國選舉區に廻附され得る効力が生じて来る。つまり云へば國選舉區なるものは、當選者を出した政黨に對してのみ活用される選舉區である。而して、國選舉區から出し得る當選議員の數は、區選舉區に於ける當選議員數の總和數以上に出ることが出来ない。例へば、甲の政黨が區選舉區から選出された代議士が、全部で六人ある場合には、國選舉區に廻附されて来た投票數が如何に多數であらうとも國候補名簿から六人以上の代議士を出すことは出来ないことになつてゐる。事實に於ては、國選舉區が然し多數の得票を持つことはないのであるが——以上のことは、小黨の輩出を防止するに最も好果を收めつゝあるものである。一黨に對する一區選舉區に於ける六萬票以下の投票は、此の理由からして全然無効投票となるわけであるが、こ

れは今日の場合止むを得ないとして放棄されてゐる。
 右の選挙法に依り、毎選挙毎に投票せらるゝ票数は、二千八百萬乃至三千萬票に上り、ドイツ全人口五千九百餘萬に比して約半數の參政者を見るわけである。此の選挙法は比較的單純で且つ全國一選挙區の理想に近いところから、學者の間には可成り評判のいゝものである。けれども、今日の場合此の點にまで相方、やうに行くやうな、立法が出来ないので、可成りと腐心はしてゐるやうである。

四 初期議會の主なる政黨

ドイツ革命後（一九一九年）はじめて召集された國民議會に集まつた各政黨の勢力を見ると左の通りである。

- 國權黨 四四人
- 人民黨 一九人
- 中央黨 九一人
- 民主黨 七五人
- 多數社會黨 一六三人

その翌年（一九二〇年）新選挙法に依りて選出せられた。新ドイツ議會の陣容を見れば左の通りである。なほ（次手にその後の政黨發達の沿革を對比しておく）

黨名	一九二〇年六月	二三年一月	二四年五月
獨立社會黨	二二一人		
ハノフア黨	一人		
ブラカンシュワイヒ黨	一人		
シュレイウイヒ黨	一人		
巴威農民黨	四人		
合計	四二一人		
國權黨	七一人	六七人	一〇六人
人民黨	六五人	六六人	四四人
中央黨	六四人	六八人	六五人
民主黨	三九人	三九人	二八人
社會黨	一〇二人		

獨立社會黨	八四人	聯合社會黨	一七三人	一〇〇人
ハノフア黨	五人	二人	五人	
共產黨	四人	一五人	六二人	
巴威農民黨	四人	四人	一〇人	
巴威人民黨	二一人	二〇人	一六人	
其他	—	二人	—	
極右國粹黨	—	三人	三二人	
獨逸社會黨	—	—	四人	
合計	四五九人	四五九人	四七二人	

右の黨勢發達の沿革を、選舉投票數によりて比較しても面白いのであるが、選舉法が既に述べた通りの比例代表法であるから、當選黨派の勢力比較は大體に於て議員數に比例してゐる故に、特にこのその數字を擧げる必要はあるまいと思ふ。たゞ若し研究の目的を以て注意すべき點ありとすれば、それは選舉有權者數と、有効投票數と、無効投票數との比較である。しかし、今こゝにそれを比較することは省略しておく。

今その十二について逐次瞥見して見る。

一、國權黨。主として大地主及び舊軍人より成り共和政治社會主義に反對してゐるが、最近には共和制そのものに對しては、甚だしき反對を表明しなくなつた。保守的國粹的思想の持主で、純ブロシヤ黨である。その領袖としては、ヘルグトが居る。ヘルフェリツシユは此の大黒柱であつたが大正十四年五月ベルリッソオナの汽車の變事で横死した。

機關紙。クロイツ、ツアイツング、ドイツチエ、ツアイツング、ドイツチエ、ターゲス、ツアイツング、ベルリナー、ロカール、アンツアイガー、デアターゲ等。

二、國粹黨。ドイツ人民自由黨と稱するもので、一名ヒットラー、ルドデンドルフ黨など呼ばれてゐる。國粹主義の壯士團とも云ふべきもので、獨裁政治を主張し、ユダヤ人排斥を大看板としてゐる。これはドイツにある幾多の國粹團體が共和國擁護法に依りて秘密結社として認められ激しい壓迫を受けるところから、公然政黨として結束し、議會に於て堂々と戦はんとの謀から擡頭したものである。領袖としては、ルーデンドルフ將軍、ゾーレ、ウエスタープ、グレーフエなどがゐる。

三、人民黨。元の國民自由黨が分裂して人民黨となつたもので、鐵石炭等の大工業團の利益を代表する工業黨であつて、一時はスチンネス等も此の黨に勢力を張つてゐたが、ストレーゼマンとの間に内訌が生じて脱出した。此の黨は主としてドイツ人系の財閥を多く含むところに注目しなければならぬ。領袖としてはゾルツハインツエなどがゐる。故ストレーゼマンによつて偉力を發揮した政黨である。

機關紙。デイ、ツアイト

デーグリツシエ、ルーンドシヤウ、キウルニシエ、ツアイツン、

四、バイエルン人民黨。中央黨の右翼に隸屬するものである。領袖ハイム。

五、ドイツ社會黨。名は社會黨であるが、保守的國粹的思想を有し、極めて頑固なる政黨である。

領袖。クンツエ。

六、バイエルン農民黨。中央黨の右翼に隸屬するもので、此の黨としては、四名の代議士を有するに過ぎないが、實業黨の六名と相合して十名の勢力となつてゐる。領袖、ライヒト。

七、實業黨。家主等の中産民の利益を代表するもので六名の代議士を有するが、バイエルン農民黨

と合して十名の形をとり、中央黨の右翼と行動を共にしてゐる。領袖、フェア（ドイツチエ、ミツテルスタン、ツアイツングと云ふのは此の黨派の機關紙である。

八、ハノフア黨。ハノフア選出の代議士で中央黨に隸屬してゐる。カトリック教徒である。

九、中央黨。カトリック教徒からなるもので、ローマ法王を尊崇してゐる。ドイツ西南地方即ちバイエルンライン地方に固き地盤を有してゐる。ドイツ政治の左右の分岐點に立ち、常に政治上有利なる位置にゐる。フェーレンバツハウイルト、マルクスなどが牛耳を執つてゐる。

機關紙。ゲルマニア。

キウルニツシエ、フォルクス、ツアイツング。

一〇、民主黨。銀行黨と稱せらるゝもので、商業派を網羅し、人民黨の財産閥に對し、これは金權閥を楯にしてゐる。ドイツ革命の直後、國民自由黨の急進派が分立して、民主黨と稱してゐる。

ユダヤ人種の金權が中心になつてゐるので、ユダヤ黨など云ふものもある。コツホ、デルンブルヒなどがその領袖である。嘗てラーテナウが牛耳つてゐた政黨である。

機關紙。ベルリーナー、ナーターゲブラットベルリーナー、フォルクス、ツアイツング、フォシツシエ、ワアイツング、

モルゲンボスト

フランクフルター、ツアイツング、ベーツエツト、アム、ナハミターク、

一、聯合社會黨。最初二派に分れてゐたが、一八七四年の總選舉の時以來一黨となり、ドイツ革命の後また分裂して獨立社會黨と多數社會黨との二派となつた。獨立社會黨の硬派が更に分裂して共產黨(スバルタクス團)を組織した。一九二二年になつて多數社會黨と獨立社會黨とは再び合同してこゝに聯合社會黨と稱するに到つた。大都市及び工業地方に地盤を有し、性質から云つて、高等労働者の利益を代表してゐる。前大統領エーベルト、前總理大臣シャイデマンなどが牛耳を取つてゐるが、今日の領袖はヘルマン、ミュラー、ウエルズ、ブライトシャイドグリズピンなどである。

機關紙。フオアウエルツ

二、共產黨。リーブクネヒト、ロンザルクセンブルグ等を首領としたスバルタクス團が改稱して共產黨と稱するに至つたもので、獨立社會黨から分離したものである、社會黨の高等労働者黨と稱するに對し、下等労働者黨と稱されてゐる。テールマン、ルートフィシャーがこれを率ゐてゐる。

機關紙。ローテ、フアネ。

甚だ簡略ながら、以上摘記するところに依りて、今日のドイツの政黨なるものの色分大體諒解せらるゝことと思はれる。斯く政黨の数は多いけれども實際政治の狀勢を見る上に重要なものは此の中、國權黨、人民黨、中央黨、民主黨、聯合社會黨及共產黨の六大政黨である。ドイツ政黨の研究は、此の六大政黨に重きを置かねばならない。此の中に於て現下特に注意に値するものは、中央黨である。

五 六大政黨の政綱管見

中央黨を考察する上には、六大政黨中他の五大政黨の大體の政綱を頭に入れておくことが、比較的上に便宜であると考へる。

(一) 國權黨

(イ) 政體。本來獨裁君主專制を希望し、所謂帝政を主張してゐたのであるが、今日に於ては時勢の趨くところを感じてか、必ずしも君主專制を強調しなくなつて來てゐる。

(ロ) 統一國家か聯邦國家か、ドイツは人の知るが如く、元來多くの邦國が相集まつて一國を成して

るるのであるが、今後、これを従來の邦國を存して聯邦として發達せしむべきか、全然中央集權を行つて統一國家とすべきかと云ふことは、ドイツに於ける大なる問題の一つである。國權黨は聯邦間の牆壁を除却したる、統一的國家を實現することを以て目的としてゐる。

(ハ) 植民問題。世界大戰の結果、ドイツはその植民地の全部を失ひたるが、さて今後植民發展をなすべきか、即ち、植民地を求めて之を開拓すべきか否かと云ふことは、一の大問題となつてゐる。國權黨は飽迄も植民發展を標榜して止まないものである。

(ニ) 外交。自主的積極的外交を標榜し、國際聯盟は、反對を唱へてゐた。なほ、ドーズ案にも反對し、ヤング案にも反對した。

(ホ) 將來の行政。中央集權的に統一された行政法を採ることを理想とし、官吏は國家の養成に依るべきものとしてゐる。

(ヘ) 直接税。所得税及び財産税に依る。

(ト) 間接税。賛成。

(チ) 生産事業の國有。社會的利害の伴ふものに限り國有賛成。

(リ) 私有財産問題。私有財産を認め、又相続法を承認す。

(ヌ) 社會政策。社會政策の實施を強調し、殊に、労働者及勤人の保護。職業組合團體の承認。農民の權利の擴張。農民の土地所有。農民の保護に當る。

(ル) 中産階級。中産階級の保護に任じ、特に移住及生活に對する配慮を怠らざること。

(ヲ) 貿易。國家的強制經濟政策の廢止。

(ワ) 宗教。基督教國を望み、教會の法律的經濟的保障を期す。

(カ) 教育。宗教的信條に基き、國粹主義的教育を施し、人格を養成すること、秀才の高級勉學の途を開くこと。

(ヨ) 軍備。強制舉國皆兵主義。

(ニ) 人民黨

(イ) 政體。共和制支持。

(ロ) 統一國家か聯邦國家か。現在の州制を維持しての統一的國家。

(ハ) 植民問題。植民發展

(ニ) 外交。日和見主義、永い間國際聯盟に反對なりしも、ストレーゼマンは進んで聯盟加入を策して成功した。

- (ホ) 將來の行政。全然獨立したる司法機關の設置を希望す。
- (ヘ) 直接税。所得税及財産税承認。但、現行法の改正を期す。
- (ト) 間接税。賛成。
- (チ) 生産事業の國有。全く公共的なるものの外は、すべて個人の經濟的獨立の保障を期すること。
- (リ) 私有財産問題。私有財産制度相續法の承認。
- (ヌ) 社會政策。勞働者及勤人の保護。地制改革。住宅問題の改革等。
- (ル) 中産階級。農民及都市中産民の保護。移住及生活に對する保障。手工業の給付。
- (チ) 貿易。煩雜なる貿易法の削除。必要に應じて保護關稅政策をとる。
- (ワ) 宗教。信仰の自由。國家と教會との相互援助。
- (カ) 教育。國民的教育法をとること、宗教教育は之を廢せざること。秀才の高級勉學の途を開くこと。
- (ヨ) 軍備。臨機應變の軍備。
- (三) 中央黨
- (イ) 政體。共和政體。

- (ロ) 統一國家か聯邦國家か。現在の州制を維持しての統一國家。
- (ハ) 植民問題。植民發展。
- (ニ) 外交。國際聯盟贊成。國際仲裁裁判贊成。
- (ホ) 將來の行政。職業的専門的官吏の任用。
- (ヘ) 直接税。多額收入及大財産に對する高率課税。
- (ト) 間接税。沈黙。
- (チ) 生産事業の國有。個人の經濟的獨立の保障。
- (リ) 私有財産問題。私有財産を認め、相續法を承認す。
- (ヌ) 社會政策。國際的に土地及住宅問題改革運動の結合を期すること、消費者の保護。人權の確立。
- (ル) 中産階級。農民及都市中産民の保護。移住及生活問題に對する保護。手工業の給付。
- (ヲ) 貿易。國家的強制經濟政策の廢止。
- (ワ) 宗教。國家と教會の分立。信仰は自由なるもローマ法王の尊嚴はこれを保障すること。
- (カ) 教育。宗教制の學校を以て教育すること。宗教教育をなすこと。秀才の高級勉學の途を開くこと。

(ヨ)軍備。可及的小軍隊主義。

(四)民主黨

(イ)政體。共和制。

(ロ)統一國家か聯邦國家か。統一的國家。

(ハ)植民問題。植民發展。

(ニ)外交。民族自決主義。國際聯盟。國際仲裁裁判に贊成。

(ホ)將來の行政。職業的官吏の專用。

(ヘ)直接税。財産税。相続税。所得税。及び浪費税に依ること。但し法律税率の確立が先決問題である。

(ト)間接税。沈黙。

(チ)生産事業の國有。實際專業の必要と認むるもの、外はすべて、個人の經濟的獨立の保障。

(リ)私有財産問題。私有財産制を認め、相続法を承認す。

(チ)社會政策。企業家と労働者の平等。農民の労働緩和。土地投機の防止。

(ル)中産階級。農民及都市中産民の保護。移住及生活に對する保障。手工業の給附。

(ヲ)貿易。自由貿易。

(ワ)宗教。教會と國家とを分離せしむること。

(カ)教育。共同にして統一的なる學校を設け、統一的教育をなすこと。授業料全廢勉學の自由。

(ヨ)軍備。一般的義務に依る國民軍。

(五)聯合社會黨

(イ)政體。共和制。

(ロ)統一的國家か。聯邦國家か。統一的國家。

(ハ)植民問題。沈黙。

(ニ)外交。労働者の國際的團結。國際聯盟。國際仲裁裁判に贊成。

(ホ)將來の行政。官吏及司法官の民選。

(ヘ)直接税。遞加的所得税。財産税。相続税。及物交附。

(ト)間接税。反對。

(チ)私有財産問題。私有財産を認め相続法を承認す。

(リ)生産事業の國有。生産額増加を見るものは(多數生産の意)すべて國有となすこと。

- (ヌ) 社會政策。社會政策に關する法律の確立工場委員法の確立。
- (ル) 中産階級。沈黙。
- (ヲ) 貿易。沈黙。
- (ワ) 宗教。宗教は個人の問題として放任すること、宗教上の目的のために、國費を使用せぬこと。
- (カ) 教育。統一的國民教育、普通高等教育共に授業料全廢、勉學の自由。
- (ヨ) 軍備。國民軍。
- (六) 共產黨
- (イ) 政體。ソヴェエツト政治。
- (ロ) 統一國家か聯邦國家か、共產統一國家。
- (ハ) 植民問題。反對。
- (ニ) 外交。世界革命に依るプロレタリアの結合。
- (ホ) 將來の行政。――
- (ヘ) 直接税。反對。
- (ト) 間接税。反對。

- (チ) 生産事業の國有。あらゆるもの、無賠償國有斷行。
- (リ) 私有財産問題。私有財産の否認(沒收) 國債の否認(取消)
- (ヌ) 社會政策。ソヴェエツト政治の原則に依る生産法の確立。法律の根本的改革。六時間労働。住宅。食糧品。健康の保護。
- (ル) 中産階級。否認。
- (ヲ) 貿易。否認(貿易の廢止)
- (ワ) 宗教。否認。
- (カ) 教育。革命精神に依る教育の改造。
- (ヨ) 軍備。赤衛軍。

以上摘記するところに依りて、ドイツに於ける政黨に關して、概觀的の知識は大體得られたつもりである。さて次には各黨別に之を研究する必要があるのであるが、こゝには今日ドイツの政體に於て、最も注目に値する中央黨につき一考して見たいと思ふ次第である。中央黨が何故にしかく注目に價するか、又、中央黨が何故に今日ドイツ政界に重きをなすかと云ふことは、單にドイツの政黨研究の上のみならず、ドイツの一般國情を研究する上にも極めて肝要なる研究問題であると考へる。

六 ドイツキリスト教人民黨(中央黨)

ドイツ革命の後、ドイツの政黨は何れも分裂するか、他の政黨に合併するか、或は消滅するかして一として舊來の政黨そのものを持続したものはなかつた。その間にありて中央黨のみは泰然自若として踏み止まり、何等内部的動搖を見ることなく、新憲法の制定と同時に、新時代に適應すべく、新たな宣言綱領を公けにしたのである。

中央黨は本來を言へば、ドイツキリスト教人民黨といふのが正しいのであるが、その議會に於ける議席の位置が中央に位するところから中央黨と呼ばれるやうになり、それが常習となつて本名の如く通用されてゐる。その政治上の政見政策に於ても、常に中庸の道を取ることが長い間の歴史に依りて之を認め得る。故に名實共に中央黨であるわけである。

中央黨には宗教的に哲學的に、一つの抜くべからざる信條がある。それはカトリック教の信仰に基づくものであつて、教會は常に國家の上に立つべきものであると云ふことである。彼等に從へば、教會は世界的一般的なものであつて、且つ永遠にして亡びざるものであるが、國家なるものは限られたる一時的のものであつて、且つ亡滅を來すものである。故に永遠にして儼存を保障されたる教會は、

一時的にして儼存の保障なき國家の上に立つべきものであるといふのである。此の信條はカトリック教會より發達して來たものであつて、十三世紀に於て既にトーマス、フォン、アクイノが強調し、而して十九世紀になつてローマ法王ピウス九世に依りて再び力説せられたところのものである。此の信條の變らざる限り、ドイツ中央黨が容易に動搖しないのは自然の數である。

ローマ法王ピウス九世は、右のやうな信條の下に世界の權力と相争つたのである。即ちローマ法王の神聖を確保せんと努力し、法王の權力を列國君主乃至政府の上に置かんと努めたのである。此の抗争はローマ法王とドイツ政府との間にも行はれた。十九世紀に於ける權力抗争中、最も興味あるもの一つは實に此の教會と國家との争ひであつたのである。ローマ法王は、その宗教的信仰を高く導いて、あらゆる生民に向つて同一の信條を保持せしむることに油斷はなかつた。その影響はドイツにもあらはれ、カトリック教徒の團體である中央黨に屬する人は、農民あり、地主あり、職人あり、商人あり、大工業家あり、勞働者あり、官吏あり、學者ありあらゆる階級あらゆる職業を網羅してゐた。故にその間にある人々の中には、社會上生活上利害の相反する者も多々あるのであるが、しかも彼等は以上述べたやうな超越的な信條に依つて固く結合した。

一體ドイツに於けるカトリック教徒の結合は、一八五二年にプロシヤの文部大臣フォン、ラウコー

がジエスイット教の國民の上に及ぼす影響を防止せんがためにその宣傳機關を局限し、學校に於ける宗教教育を制限する等の試みをなしたのだ。プロシヤ議會にライヘンスベルグ黨なるものが生れ、カトリック教徒の議員が相結合してラウコーに抵抗したのが最初である。ライヘンスベルグ黨(人名)の此の團體は、地方的に又民衆的に基礎がなかつたので、政治的には甚だ微力であり且つ後には殆んど消滅したのであつたが、甚いた種は生へるやうに、それが種核となつて後に中央黨として發達するやうになつた。今その發達の経路を詳記するほどの必要はないと思ふから略す。

フオンラウコーが何故にジエスイット教の宣傳を防止せんとしたかと云へば、それは元來プロシヤの憲法なるものが、宗教に干渉主義を取つたと云ふことに遠因を發してゐる。と云ふのは、これがために、僧侶は獨立權を有し、教會及び信徒に對する一切の事務を任すといふことになり、その結果古來政略的なるカトリック教會は、その僧侶の結合を固めて、それが政治的に勢力を揮ふやうになつたからである。ジエスイット教の傳道史はすべて此の政治的策略にあらざるはないのであるがドイツに於ても之が甚だしく政治家の神經を刺戟するやうになつたのである。それでラウコーのジエスイット教壓迫がはじまつたのであるが、これがために反つて舊教徒の結合を強めたのであつた。而して、此の結合を益々力強くし、所謂中央黨なるもの、出現を顯著ならしめたのは、彼の有名なる文化戦争である。

七 文化戦争と中央黨

文化戦争なるものはローマ法王(ピウス九世)の超國家主義とビスマルクの國家主義との抗争である。

一八七〇年普佛戦争が起つた時、フランスのローマ守備隊がローマを引上た虚に乗じて、イタリアはローマを完全に占領して其統一を完成し、ローマ法王は之がためにその法王領を失ひ、それまで有して居つたイタリア支配權もなくなり、たゞ教界の法王として取残された。此時に當つてドイツに於けるカトリック教の團體、卿ちウルトラモンターン(山外黨、後の中央黨)は、その黨派の目的たる自己の黨派の利益の擁護に當るの外、その大本山たるローマ法王の擁護にも當るべきものとして蹶起したのである。彼等はビスマルクに對し、伊太利のローマ占領を取消し、法王領を法王に還附せしむべしと要請し、若しイタリアが之を承引せざるに於ては、兵力を以てしても干渉すべきものであると強要したけれどもビスマルクは之を肯んじなかつた。その間にローマ法王は、法王の行動言語に謬なしと云ふ神聖無謬主義を宣布した。これは明らかに國家に對する反逆的宣言である。カトリック教徒

中の學者の中でも、此の無謀なる宣言に反對するものが續々と出て來た。教會は斯の如き説をなす、大學の教授等を破門し、且つ免職せんとした。ビスマルクは法王廳の決議を認めないので、此の大學教授の免職を拒み、且つ益々反對の氣勢を擧げた。教會は皇帝に直接抗議を試みたが、皇帝も亦これを承認しなかつた。こゝにビスマルクとカトリック教會との間に大喧嘩が始まつたのである。

教會側即ち山外黨(中央黨)の領袖はウインドホルストであつた。彼はハノファの貴族であつて、その體軀は極めて小さかつたが、その人物は當時第一等の大人物であつた。ビスマルクの治世を通じて、ウインドホルストは最大の政敵であつた。ビスマルクに策あればウインドホルストにも策があつた。ビスマルクに略あればウインドホルストにも略があつた。膽略智謀に於て此の兩者は相譲らざるものがあつたのである。ビスマルクは教壇から政府反抗の言を放つものを禁獄に所すべき法律を出した。教會側は之に對して、自己の監督に屬する小學校教員にしてカトリック教徒であり乍ら、法王の神聖無謬主義を奉ぜず、國家の味方となつてゐるものを免ぜんとし、又、お手のもの、結婚拒否權を利用して、國家に黨するカトリック教徒の結婚を拒否したのである。

そこでビスマルクは、新たにプロシヤに結婚法を布いて、僧侶は一切の結婚の拒否に立障るべからざるを定め、又、僧侶を凡て官吏にならして、何人でも僧侶たらんと欲するものは、大學に於て三

年の勉學をなし、その上神學の外に、哲學歴史及ドイツ文學の試験に通過したるものでなければならぬとした。且つ又、同時に、僧侶に對して、僧侶の任免に際しては、必ず之を政府に通告すべきことを要求し、政府はその僧侶の必要資格の有無を検査する旨を規定した。これが問題の五月法であつて、ローマ法王は之に對して、之等の法律の無効なることを宣言し、争ひはいよいよ激しくなつて來た。ドイツ政府とローマ法王廳との間には、外交全く斷絶してしまつた。

此の争ひは一八七四年七月、キツシンゲンに於てカトリック教會に屬する一勞働者がビスマルクを暗殺せんとするに及んで頂點に達し、政府は嚴命を下して、叛徒を以てカトリック教徒を遇し、僧正等を審問し、財産を差押へ、或は牢獄に投ずるに至つた。斯く争ひが激しくなればなる程、カトリック教徒の結束が、例の超越的信條に於いて堅くなつて行くのであつた。而して、ビスマルクに對する格好の闘士ウインドホルストを有する彼等は此の間に益々その政黨的結束の範圍を擴張しつゝあつた。一八七四年一月の總選舉に於て六十三名から九十一名に増大したる中央黨は、明らかにその實力のほどを示してビスマルクを脅威しつゝあつた。ビスマルクの政策は此の時から漸次變つて來て、保守政略から自由政策に轉じつゝあつた。しかも、逐年濃厚になりつゝある社會主義の空氣は社會黨の發展を如實に示しつゝあるのを看取しなければならなかつた。炯眼なるビスマルクは早くも時勢を見

一八七八年ローマ法王ピウス九世が歿してレオ十三世が之を繼いだ。レオ十三世はその就職をドイツ皇帝に報ずると同時に、従来の永い間の抗争によりローマとドイツとの間に於ける關係の甚だしく緊張しつゝあることを以て、いたく遺憾に堪へないと云ふことを表明した、之を機としてビスマルクは、カトリック教僧侶に對する迫害的法律を撤去してこゝに永年の争闘がはじめて和解した。此の文化戦争の結果として中央黨の勢力は、深くカトリック教徒の間に浸潤し、今日となつてはドイツ政界に於て不拔の位置を占めてゐるのである。

八 萬病感應丸式政綱

ドイツの政黨は、すべて階級別であるか、或は職業別に依つて成立し、何れもその相寄るところの階級なり、職業なりの利益を代表してゐるのである。

ところが、中央黨はカトリック教徒より成るものであるが、その中に含まるゝ人々は、既に云へるが如き千差萬別である。故に中央黨の如く、その思想なり態度なりが複雑な政黨はない。右傾的思想政見を保持するものもあれば、左傾的のものもある。ライルトの如きに、エルツベルゲルの暗殺に際して、

當時宰相として宣明して曰く、ドイツ共和國は、將來社會主義的國家の實現に向つて努力するのである。と、これがために社會黨の信任を得たのであつた。斯く複雑なる分子、即ち各階級各職業を通じて、その同志を有するところの中央黨なるものは、一にカトリック教徒の例の信條によりて相結んでゐるとは云へ實際政治に於てその政見政綱の上にも何等か脈絡相通じ各階級各職業を通じて、相容認するところのものがなければその結合は決して固いものと云ふことは出来ない。こゝに於て中央黨の政綱なるものを見るに、巧みに人心の機微を捕へ、經濟的利害を按配してゐる。

農民とか商人とか職人とか云ふ風の職業階級の者に對しては、所謂中産階級擁護政策を明示し、工業労働者に對しては社會政策をとり、一般國家財政に對しては緊縮方針を高唱するといふ風に、抜目のない政綱を發表してゐる。その要目は、前にこれを列記してあるが、今少しくこれを反復考察して見たい。

中央黨は、第一に或る特種階級なり特種團體（職業上）なりが、政治上に特權を獲得することを排斥し、一般平等自由の觀念に依り民主政治の實現を希望してゐる。政體からいへば共和制を主張する。國家の形體から云へば、現在に於ける州制を保持してあくまでも統一的ドイツ國の確立を期し、國防及び外交の問題は、此の統一的國家が獨自に積極的の之を處理すべきものであるとする。各州は

その自治を確保し、教會及び學校の諸問題はすべて、獨立的に之を處理しなければならぬ。ドイツは人口問題、及び經濟問題を解決する必要上、植民地を持つべきである。國際聯盟には加入すべく、あらゆる國家は國際仲裁裁判の處決を容認すべきである。少數民族は保護さるべき權利がある。海洋は自由でなければならぬ。軍隊は最小限度に於て之を保有すべく、その制度及び様式に關しては専門家の立案に委する。國家の官吏は職業的であり専門家でなければならぬ。國家から無學者を無くすることに努める。直接税は之を徵收すべく、殊に多額収入及び大財産に對しては、高率の課税をなさねばならない間接税に關しては沈黙して政綱を揚げてゐない。

生産事業の國有には反對し、個人の經濟的獨立を保障する。私有財産は勿論之を認め、相續權はこれを維持しなければならぬ。都市及び地方に於ける社會政策を實施し、これを單に一國內に制限せず國際的に實現することに努力する。地制の改革、住宅問題の改革を行はねばならぬ。人權の尊嚴は飽迄これを保持すべきものである。中産階級は特にこれを保護する必要あり、農民に對してはその移住問題につきて老慮し、職人に對してはその職業材料の世話に腐心しなければならぬ。而して中産民の勞働及び資本の向上を期する。商人の正當なる利得を保護する。中産民のために戰時強制經濟的制度は、常にこれが廢止に努力する。

文化方面に關する中央黨の政綱を見れば、次のやうなことが主となつてゐる。キリスト教生活は之を保持し且つ益々これを向上發展せしめなければならぬ。宗教上の團體結合結社は自由である國家と教會とは權力によつて離間さるべきものでなく、兩者共に相理解して共同的に行動すべきものである。思想上信仰上の機關及びその同志は平等に保護さるべきものである。植民地に於て生れたるものは、キリスト教徒として養育さるべし。初等教育の學校はすべて何れか或一派の宗派に屬すべく初等教育には必ず宗教々育を施すべきこと、各階級を通じて、秀才は貧富に抱らず高等教育を受るを得るの便宜をはかること、結婚はこれを重んじ、家庭家族は之を保護し、婦人の性質及び能力は特に之を助長し且尊敬すること、殊に子供の教育に對して婦人に保護を與ふること。

斯く見れば中央黨の政綱なるものは、實に多方面にして一方に偏するところなく、萬病感應丸の感がある。これを他の政黨の政綱に比較するとき、その普遍的なるを特に強く感するのである。しかもこれは單に政略上の利害の打算から出發して來てゐるのではなく、その宗教的信仰に基づく理想から出發して來てゐる。故に、實際政治に於て種々なる難問題が起る毎に、中央黨がこれを解決する最後の判斷の標準は、その信條に基づく道德觀から出發するのであるから、ドイツの政治を論ずる人の中には、中央黨が順境にその政策を實施實現して行く場合に於て、その最後にカトリック教萬能を

以て、ドイツの統一國家を疎外するに到るか、それとも、現在の綱領の下に各宗教宗派を包含しての統一國家を支持するか、その何れに定まるべきかは興味ある問題であると論じてゐる者もある。これは、從來頻々行はれたる大ドイツ運動、又は、ドイツに於ける分離運動とに思ひ及んで云つてゐるものである。

兎に角、中央黨のこの政綱なるものが、小黨分立して混沌たるドイツ政界に於て、その何れの方面からも妥協點を見出さるゝといふことは、極めて有利なる地位を保たしめてゐる。

九 獨逸政治の樞軸としての中央黨

革命以後、ドイツの内閣は屢々交迭してゐる。これを一瞥すると、

- シャイデマン (社會黨)
- ヘルマン・ミユラー (社會黨)
- バウエル (社會黨)
- フエーレンバッツハ (中央黨)
- ウイルト (中央黨)

クノー (中立)
ストレーゼマン (人民黨)
マルクス (中央黨)
ルーテル
マルクス
ミユラー
と云ふ順序になつてゐるが、その政權を握つてゐる年月から云へば、中央黨が最も長い。しかしして首相こそ中央黨から出てゐないが、革命後の歴代内閣に於て、中央黨が除外されたことは全くないのである。

- 今こゝに念の爲めに、今日のドイツに於ける人口を、宗教別に依つて分けて見ると左の通りである
- 全人口 五八、四四九、七九三人
- 右の内
 - 新教徒 三八、一一七、二九五入
 - カトリック教徒 一九、三二一、四八一入

ユダヤ教徒
其他

五三八、九〇九人
四七二、一〇八人

(一九二三年三月 調)

而して、此の中から選舉有権者数を求めると、總數三五、九四九、七七四人であつて、此の内實際投票したるもの、二八、四六三、五八一一人である。その内から中央黨に投じたものが三、八四五、〇〇一人と云ふ數字を示してゐる。これは一九二〇年の選舉の結果について數字を擧げて見たものである。斯く數字的に見ると、中央黨なるものが、今日のドイツに於て可成り有力なものであると云ふことは首肯出来る。これは參政者の頭數に依つて見たものであるが、その政綱から見れば、既に明らかなるが如くに非常に妥協に富んだ百方美人式のものである。地盤に於て相當勢力の位置に居り、その政綱に於て斯の如くである中央黨が、從來ドイツの政界に、常に一の緩衝地帯の如くに、左右兩系統の妥協點となつて、政權の中樞を操つて來たと云ふことは、その依つて來るところ遠しとしないのである。今後ドイツの政治が、左に進むか右に進むかと云ふことが、世人の興味の中心となつてゐるが、此の左右の色合なるものは、ドイツに於ては、今後當分の間大した問題とするに足らないものであると思ふ。國權黨が絶對多數を得て、これが政權を獨占する以外に、今日のドイツに於ては顯著なる政治

的變動が期待し得ないものであると考へられる。形體に於て思想的傾向が右に向つたにしても、左に向つたにしても、その中樞たる中央黨が政權の外に立たざる限り、ドイツの政治は依然として妥協主義であり、漸進主義であり、建設主義であり、而して、社會政策の實施に腐心するのみである。政黨間の主義理想の争點は、常に此の實際的社會政策政治に依つて眞綿で引つくるまれた形に留まるであらう。

ウイルトが社會主義への進路を口頭で明示しても、マルクスがストレーゼマンの政界に依つて、國權黨を導き入れても、中央黨がその位置に留まる限り、實際政治が急激なる變動を示すことはない。今日中央黨は何と云つてもドイツ政界の中樞となつてゐることを認めないわけには行かない。

世界大戰は聯合國の勝利で、ドイツの敗北だと見ることも出来るが、又、一面から見れば、ローマ法王の勝利であつて、新教及びギリシヤ正教の敗北であると思ふことが出来る。これがために、カトリック教會の勢力が著しく強大となつて來てゐることは争ふことが出来ぬ。今日のヨーロッパの政治なるものは、ヴァチカンも度外視してこれを判斷することは困難である。列國がわれ先きにと競争的に、使臣をヴァチカンに遣はすのも、此の間の消息を如實に物語つてゐるものである。此の状態にある間に、古來ローマ法王とは切つても切れぬ密接なる關係に於てある、ドイツのカトリック教會が

ドイツの政治の上に何等の反映なくしては止むことが出来ないわけである。

第一二 獨逸の反動運動

一 ドイツ人の祖國觀念

ドイツ革命後、革命政府は、獨逸全國にわたつて義勇兵を募集した。その義勇兵募集のために張出した廣告の繪ビラが一萬二千餘種に上つてゐる。獨逸共和國の保護防備のために、義勇兵の募集に應ぜよと云ふ意味なのである。ところが、此の一萬二千餘種の繪ビラを通觀して、一の奇異に感ずるところは、その募集の文句の中に「獨逸共和國云々」と云ふ風に共和國と云ふ文字を使用してあるものが十種を出でないと云ふことである。而して、此の「獨逸共和國」又は「共和國」と云ふ文字を刷込んである十種に足らない繪ビラは、何れもザクセンに於て作られ且つ頒布されたものである。ザクセンは獨逸全體を通じて、最も自由思想の盛んなところであつて、今日にあつて、共產運動の本場になつてゐる地方である。

共和國成立の當初から、獨逸人は餘り共和國と云ふ文字を用ひなかつたことは、右の一例でもわかるが、然らば如何なる文字をその繪ビラに使用してあるかと云へば「祖國の爲めに」とか「郷土の爲

めに」とか、さう云ふ文字を使用してゐる。これは今日でも變りのないことであつて、獨逸人は二言目には此の「フアーターランド」——「ハイマート」——「祖國」郷土」(ハイマートを郷土と譯すのはしつくりとは適合しない)と云ふ語を使ふ。つまるところ愛國心の發露であり、愛郷心の現はれである。

獨逸人のその生れた土地に對する執着は著しいものである。共和國政府が殊に祖國郷土と云ふ文字を高唱して、義勇兵の募集を試みたのは、よくその國民心理を了解してやつたものである。斯の如く、革命の當初から、革命政府はその國民に對して、精神的に心理的に一步を譲つて臨まねばならなかつたと云ふ點に一寸注意しておく必要がある。何となれば此の愛國心——祖國愛なるものが標語となつて、獨逸の反動運動が起り、その秘密結社が發達したものであるからである。

此の反動的秘密結社の發達は、意外に廣汎なるものであつて、その勢力も亦侮るべからざるものがあつた。或る人はその反動運動の勢力の大なることを詳論した後で「今日の獨逸は共和政府の下に統治されてゐる形式になつてゐるが、獨逸共和國の安寧秩序は事實上戦前の軍隊に依つて保持されてゐる」と結んでゐる。これは、從來屢々起つた共產黨の暴動や陰謀やが、常に此の反動的秘密結社の勢力に依つて折壓せられた事實の多いことを物語つてゐるものである。

二 自衛團から暗殺結社へ

一九一八年クルト・アイズナーが革命を起して、バイエルンに勞農政府を樹立した時に、反勞農政府の徒が集まつて、アインヅオーナーヴェアー(自衛團)と云ふものを組織した。それは舊軍人士官から成るもので、立派なる軍隊組織であつた。それが大きな勢力をなして、とう／＼アイズナーを暗殺し、勞農政府を覆してしまつた。此の自衛團がその後非常な勢で發達して、獨逸全國にわたり驚くべき勢力を確保するに到つた。而して、自衛團は單に保守派の徒のみが參加したのではなく、社會黨の士もこれに加はり、社會黨のウインニヒ(これは後にカップ一揆に參加した)や社會黨から出てバイエルンの總理大臣となつたホフマンなどが、その有力なる統率者であつたことに依つて、自衛團なるものの最初の性質は、反ボリシエヴィキから起つたものであつた。獨逸國擁護共和國擁護の二重の性質を持つて居つたと云ふことが了解出来る。

ところが此の自衛團は元來が帝政時代の士官軍人が大部分を占め、それが帝政時代の軍隊組織と殆んど同じ組織を持ち、全國的に勢力を得たところから一つの野心家がこれを利用せんと企つるに到つた。それが一九二〇年三月十三日のカップ一揆である。その總大將は云ふまでもなくカップで、その

表面の策戦家はエルハルドであつた。

同日午前六時エルハルドは、部下の自衛團を率ゐてベルリンに乗込んだのである。これを出迎へた人々の中には、ルーデンドルフ將軍、フォン、ヤギーなど云ふ名士があつた。カッツは直ちに政廳を占領して新政府を樹立した。總理大臣はカッツ、軍務大臣リウトウイック、プワシヤ内務大臣ナゴ農務大臣ワンケンハイムなど云ふ顔振れが主であつた。而して法令や布告を盛んに發布して、大にやつてのけようとしたけれども、共和政府及び労働者の反對がはげしく、總同盟罷業が一般民衆の堪へざるところとなり、同月十七日カッツは飛行機でスウエーデンに逃げ、エルハルド、クユットウイツなどはホンガリアに逃れた。而して、自衛團の最も有力なる統率者の一人であつたベルヒトルド大尉は、労働者との市街戦に戦死してしまつた。

自衛團はその組織が大きく、且つその参加人員の多数なるところから、早く既に聯合國側からヴェルサイユ條約違反と云ふ批難があつた。而して、カッツ一揆に依つて、それが内政上にも甚だしき危険を現したところから、共和政府は直ちにその解散を命じた。自衛團は斯くして解散せられたが、これに參加した士官や軍人はそのまゝで散り／＼ばら／＼になることを欲しなかつた。それで社交を名とする舊軍人俱樂部とか、運動俱樂部とか、其他種々なる名目に於て、小さな團體が澤山出來たので

ある。これが、保守的、反動的運動の動因となつて、最近四年間に經驗したやうな暗殺時代を現出するに至つた。つまり、自衛團が解散されて、無数の暗殺結社が出來上つたのである。その中で最も有名なものは、ホンガリアに逃れたエルハルドの率ゐるオルガニザチオン、コンズル、省、略してオルガニザチオン、ツエと稱せられてゐるもの、エシユリツヒの率ゐるオルガニザチオン、エシユリツヒ省、略してオルゲツシエと云ふもの、ロツスバツハの率ゐるロツスバツハ組などがそれである

三 オルガニザチオンC

これ等の愛國的、保守的、國粹主義的な反動團體が、全國にわたつて無數に組織されたのであるが、しかも、其の勢力が分裂してゐる爲めに統一的の運動が出來ず、さりとて、比較的急進的な考へを持つてゐる徒黨であるから、ちつとしてゐるわけにも行かず、その結果として拙劣卑怯なる暗殺を企てるに至つた。彼等が企てた暗殺の中で、特に有名であり世間の注意を惹いた二三の實例を擧げて見ると、先づ第一にエルツベルゲンの暗殺を擧げなければならない。一九二二年八月二十六日グリースバツリの温泉場で散歩中であつたエルツベルゲルは、二人の青年の爲めに射殺された。此の二人の青年は前に擧げたオルガニザチオン、ツエに屬するものであつた。次には一九二二年六月四日に企てられたシ

ヤイデマンの暗殺である。幸にしてシャイデマンは硫酸を少し浴びせかけられただけで事なきを得た。此兇行者も亦オルガニザチオン、ツエの關係者であつた。一九二二年六月二十四日朝ベルリン郊外グルーネワルドの自宅から、外務省に登壇しようとした自動車で家を出た外、相ラーテナウは三人の青年に依りてその途中自宅の直ぐ近所で暗殺された。彼の暗殺は獨逸の一轉機を劃し、急轉直下獨逸經濟界の狀勢を悪化せしめたことは何人も知るところである。その暗殺者は同じくオルガニザチオンツエの仲間であつた。

ラーテナウの暗殺後間もない七月三日、マキシミアン、コハルデンが刺客に襲はれた。彼は一個の新聞記者に過ぎないが、彼の上に企てられた暗殺には政治的に大なる意義を有して、大なる問題を生起したのであつた。彼は負傷したゞけで死ななかつた。之も亦オルガニザチオン、ツエの仕事であつた。斯の如く大なる暗殺が頻々として行はれ、一九二三年十二月四日、司法大臣が獨逸議會に於いて報告したところに依ると、カツプ一揆以後行はれた暗殺事件は實に二百八十一件に上つてゐると云ふことであつた。而して、この二百八十一件なるものは、既に法廷に於て判決されたる決定事件であつて、未だ事件續行中のものを加算すれば、その總數三百三十九件あると云ふのであつた。以て如何に無鐵砲に無暗矢鏢に暗殺を試みたかを知るべしである。

その法廷に於ける被告の陳述を通して、その暗殺の動機を見ると、二つの明らかに異つた動機が見える。一つは秘密結社に参加してその誓約に基づき愛國的精神を以て、自己の行爲が眞に國家の爲め獨逸國の爲めであると云ふ信念の下にやつてゐるものと、今一ツは食ふに困つてゐる青年が金をとるために暗殺を約したと云ふのは、一種の職業的な妙な現象であるが、獨逸に於てよくその心理を解し得るもので、極めて注意すべき大切な事象として識者の間に問題になつてゐることである。カールパウアー事件と稱する、ミュンヘン大學の一學生のやつた行動などは、最も有名なことであるが、彼は大統領エーベルト、エルツベルゲル、シャイデマンなどを殺すから金をくれと要求し、常にロツスバツハから制止されて居つたと云ふ小説的な面白い事件である。

四 怪物エルハルトと其一黨

エルハルトの名がはじめて世に知られたのはカツプ一揆の時からであつた。彼は不思議なる人格を有し、日本で云へば大親分の器である。最初彼の配下に集つた三千人の同志は、何れも無條件服従を約し、死生萬事彼の手に委してあつた。彼はミュンヘンの警視總監ビュナーと親友であつて、彼の保護者は常にこのビュナーであつた。その如何にビュナーがエルハルトを保護するに忠實であつ

たかは彼の有名なる旅券事件でも明瞭である。ビユナーはエルハルトに二枚の質の旅券を交附した一枚はフーゴ、アイゼーレと云ふ名の下に、一枚はヘルマン、アイヒマンと云ふ名となつてゐた。その旅券面の寫眞は同一なのである。而して、此の旅券でエルハルトは何時でも外國（ハンガリア）に逃げられるやうにしてあつた。此の二つの質旅券が偶然にも官憲の手に發見されたが、ビユナーが警視總監であるところから、エルハルトは事なきを得たのであつた。その後エルハルトの手にして居る旅券はと云へば、フーゴ、フォンエシエーグと云ふのであつた。此の變名について注目すべきことは、その首字が常にHとEになつてゐることである。

自衛團が解散を命ぜられる以前から、エルハルトは自己の直參の配下を有してをつた。彼はその同志を糾合したる團體に對して、オルガニザチオン、コンズルと云ふ名を附した。コンズルはローマのコンサルのことである。而して彼は自らコンサルを以て任じてゐるのである。然らば、此の結社は果して何を目的としてゐるものであらうか、それは極めて明瞭になつてゐる。

- 一、愛國的精神を鼓吹し、一切の非愛國的及び超國家的思想と戦ひ、ユダヤ人を排斥し、社會主義及共產主義的の政黨に反對し、ワイマールの憲法を改正して獨逸の傳統的國粹的憲法を樹つるにある
- 二、右の目的を達成する爲に、意志強固なる愛國的同志を糾合し、從來の革命的狀態を一變し、將

來の革命運動を阻止し、安固なる國防機關を確立する。

- 三、此の結社に参加するものは、すべて無條件服從の義務を有し、攻防共に命を賭し、相互の扶助に於ても同様の情誼を結び、一切の生活、一切の行動に於て同心一體の實を擧げなければならぬ。（彼等が旅行をなす時など、全く無一文にして全國を往來することが出来るのである）
- 四、若し同志にして右の精神目的に背反するか、或は卑怯陋劣の行動ある場合に於ては、直ちに之を射殺すべきものとす。
- 五、少年の教育はすべて此の精神目的を以てし、その經費の如き同志の相互扶助と同様の方法を以てすべきこと。
- 六、更にこの目的を具體的に達成せんが爲に、國民軍を組織すること、國民軍は獨逸民族の如何なる階級のものにても之に参加することを得るもユダヤ人及びその他の外國人は一切これを加ふることが出来ぬ。
- 七、軍器武器の發明をなす者は、極力これを援助し、その經費の補助をなす。
- 八、獨逸の民族的愛國的精神に背き、此の結社の目的と相合致せざるが如き徒は、すべてこれを暗殺すべきものとす。

など右の如く大體列記したところに依りても、此の結社の大凡その性質を察することが出来る。而して、従来の實際上の行動を見れば、彼等は單に之を口軍に漫然として云つてゐるばかりでなく、その云ふところを實際に行つて来た、數ある秘密結社中最も恐るべきものとされてゐる所以である。彼等はエルツベルゲル、ラーテナウ、ガライス、などを殺し、シヤイデマン、ハルデン、アウエルなどを襲ふてゐる。而して、その暗殺者はすべて十代二十代の青年であつて、その法廷に於ける辯明などを見るに一言もその秘密結社の内實に及ばず、すべて自ら罪を負ふてゐるところ、注目に値する。エルハルトは後に囚はれてライプチヒの未決監に居つたが、彼は昨年の秋その監獄から逃れてしまつた。その逃亡の状を見ると、堂々公然と門扉を開いて逃げた跡が歴然たるもので、世人は彼の勢力の那邊に迄及んでゐるかについて恐れをなしてゐる。彼の徒黨は最初五千と稱せられたが、一九二二年頃には十八萬の誓約者を有したと云はれ、その組織は獨逸全國にわたり驚ろくべき勢力を示してつた。ラーテナウ暗殺の後、政府は共和國擁護法を發布して、あらゆる秘密結社の解散を命じ且つ實際に解散を試みた。その結果オルガニザチオン、ツエも亦解散を餘儀なくせられたがその殘黨は今日もなほ存して所々に小さな變つた形となつて存してゐる。

以て結社の本部として居つた。多くの秘密結社が、かゝる商會社の形式で存在してゐるのは獨逸の通例である。これは金融上にも便利が多いからであること云ふことである。

なほ又、エルハルトはその金融の必要上から、銀行を有してをつた。その銀行は獨逸國內ばかりでなく、スイス、ホンガリア、オーストリア等にも支店を有し、之を通じて同志間の金融の便をはかつてゐた。彼の金力は何處から生じて来たかは、別に改めて次の節に記述することにする。

五 ロッスバツハと其の一黨

エルハルトに次で擧げなければならぬ人物はロツスバツハである。彼はベルリン郊外ワンゼールに家を持ち「獨逸案内所」と云ふ妙な事務所を開いて、ベルリン、ミュンヘン、カッセルその他到る處にその支局を設けて、その配下との連絡を保つてゐた。彼も亦自衛團から別れてエルハルトのオルガニザチオンと密接の關係を有するものである。彼の配下はすべて軍人であるが、自衛團解散後は遊覽俱樂部なる名稱の下に、法律の規定に基いて一つの結社を組織した。法律によれば勿論政治的行動は一切これを禁ぜられてゐるのであるけれども、巧みに政府の監視を免れてゐた。

ロツスバツハは大地主の間に勢力を有し、彼の經濟はすべて此の大地主の手に依つてなされてゐた。

彼はその部下を地主の土地又は工場に多く入れてゐた。彼等はピストル、短刀、十手等の武器を常に懐中して居つて、労働者がストライキやその他不穩の行動ある場合には、容赦なく暴力を以て之を制止することを以て能とした。

ロツスバツハは、メクレンブルグ、オバーシレジア、バイエルン、ボムメルンその他處々に種々なる名目の下に労働組合を作つたが、それはすべて彼の主義目的と相合致する國粹運動者の團體であつた。然して斯くの如き小團體は屢々官憲の干渉するところとなつて、解散を命ぜられた。一九二二年十二月彼はミュンヘンに於てロツスバツハ組の一味徒黨を會して結束を固くしたが、それに集まる者は百五十人の幹部連であつた。而して彼等は揃ひの帽子を被り、揃ひの腕章をつけ、旗をかゝけて會場に臨んだ。その席上に於てロツスバツハは演説して曰く「吾人の結社が如何に敏速に解散を命ぜられやうと、吾人はそれよりも迅速に新たな結社を完成するのである」と豪語した。

彼の結社の目的精神は大體に於てエルハルドのオルガニザチオン、ツエと同一であつてそれよりもなほ右に傾いた急進派なるかに見える。彼等も亦左傾派及ユダヤ人に反對しようとその暗殺を企てた。その同志の結束誓約に於てもエルハルドのそれと相類し極めて堅固なるものがある。ロツスバツハは屢々家宅搜索を受け、又は檢束を受けたことがあるけれども、その都度直ぐに解放せられた。而して

今度こそは眞に捕縛されたかと思ふと、彼は何時の間にか身をくらまして逃亡してゐると云ふ風で、その神出鬼没は人を一驚せしめてゐた。

彼は幾度となく、その結社の名前を變更した。故に往々にして人に過られることがあるが、名は變り人員は變つてゐても、そのロツスバツハ組であることに變りはなかつた。その結社の内規には前にも云つた通りオルガニザチオン、ツエと同様のものがあるので、同志内の反逆者などに對する罰はすべて死を以てすると云ふやり方で「反逆者の暗殺」と云ふ有名な事件が起つたことがある。それはロツスバツハの同志間に反逆したものがあつたのを、同志がこれを暗殺し又は私刑に處したことである。それが最初は單なる喧嘩人殺しとして取扱はれたのであつたが後になつてさう云ふ事實が暴露したのであつた。

一九二二年十二月十六日に、獨逸國粹國民黨の代議士であるグレーフェ、ゴールドベールと同じく同黨代議士であるヴーレ、それから陸軍少佐ヘンニング等が主となつて獨逸國民自由黨——極右國粹黨と云つた方がよくその内實を示す——と云ふものを創立した。これは獨逸國內に存する急進的な國粹黨の秘密結社を、法律的に正々堂々たる政黨に持ち直さうとする試みであつて、彼等は先づその中心勢力としてロツスバツハ一派を手に入れた。その結果ヴーレ、グレーフェ等は國粹國民黨から除名され

てしまつて、純然たる極右黨として議席の極右に控へることゝなつたのであつた。

此の極右國粹黨の成立後、ロツスバッハはその徒黨張の爲めに、種々なる組合團體を作り、その數二十七に及んだ。その頃から急に擡頭して來たヒットラー一派の國粹社會勞動黨即ち獨逸のフアツシストの代表團體と見なされてゐるものが勢力を擴張して來たので、之れ等の國粹運動がエライ景氣を示した。ルーデンドルフ將軍なども此の一派に加つて助勢したのであるが、此の極右國粹黨は今年五月四日の選舉に於て、三十二人の代議士を議會に送るに至つた。その中にはルーデンドルフ將軍も一議員として加はつてゐる。

六 ヒットラーと其一黨

ヒットラーの國粹社會勞動黨の運動は一九一九年頃から起つてゐたものであるが最初極めて微々たるもので、たゞ單に極端なるユダヤ人排斥、社會主義排斥運動として見なされてあつた。ヒットラーは元來がオーストリア人であつて、國籍は獨逸にはない。彼自ら稱するところに依ればペンキ屋であるといふが、齒醫者もやつてゐたことである。辯説に勝れ人を説服するの妙を有し、且つ何となく人を惹きつけることである。

彼の運動の精神目的も大體に於てエルハルドのそれと相似てゐるから、こゝには重複をさけておくことにする。彼の運動は自衛團が解散され、オルガニザチオン、ツエが解散された。その後、俄然として頭を擡げて來た。それは一方にはイタリアに於てムツソリニのフアシストが暴力運動に成功したことが著しく獨逸の國粹派の人々の心を刺戟したること、それに一方にはフランスのルール占領が獨逸人をして愛國心を發つたことがあつたので、此のフアシストの運動は非常な勢で獨逸全國を風靡するに至つた。

ヒットラーに就いて最も注意すべきことは、彼が軍制を定めて一定の軍隊を作つたことである。他の數多の結社にあつては、その各地各團體の連絡を保つ上に完全なる組織を作つたものはあるが、否すべて立派なる組織をなしてゐるのであるが、軍規を定め、制服制帽を作り、教練迄もやつた云ふものはないのである。然るにヒットラーは、その軍隊を突撃隊、豫備隊、補充隊との三種に分ち、その隊制なども嚴格に定め、士官將校の階級も明らかにして武器を整へてかゝつたのである。突撃隊と云ふのは現役兵であつて、制規の軍事教練を受けるものである。豫備隊と云ふのは家事その他の都合で現役に留まることの出来ないものが、夜間とか休日とかに出て來て軍事教練をなし萬一に備へるものである。補充隊と云ふのは豫備隊よりも更に軍事教練に参加し難きもの、又は老人とか少年とか云

ふものであつて、これは軍事勤務以外軍隊に必要な事務を援助するものである。

ヒットラーは自の結社を右の如く固めると同時に、他の同じ目的の結社と相結合することを企てた。彼はブンド、オーバーランドに加つてその領袖の一人となつた。ブンド、オーバーランドはアイスナ一の勞農政府が出来た時に、共和政府軍を助けて之と戦ひ、後にはオーバーシレジアに於て、ポーランド軍と戦つた義勇兵の一隊である。それが發達轉化して國粹結社となり、オルガニザチオン、ツエなど、時に行動を共にし、ガライス、ハルツング、ザンドマイアーなどの暗殺をやつたものである。これが一九二三年九月二十四日に、ヒットラーの突撃隊と結んで國粹運動に對する戰鬪隊を作るに到つた。

當時出来上つた國粹運動の諸結社の中で、最も注目すべきものは六つあつた。今一々それ等の結社の内容を説明してゐる暇がないから、たゞその名だけを擧げて見ると、

- 一、バイエルン愛國戰士團（これはヒットラーとオーバーランドと合したもの）
- 二、ミュンヘン聯合國粹黨
- 三、ミュンヘン自由隊
- 四、ウイキング社（エルハルドの一派）

五、ブリユヘル、ブンド

六、バイエルン、ウント、ライヒ、ブンド

斯く國粹的の運動が盛んになり、その結合も追々大きくなるにつれて、中央政府との間に間隔が生じて来たが、それが一九二三年十一月八日のヒットラー一揆に依つて一頓座を來し、國粹運動は忽ちにして屏息するに至つた。

ヒットラーとカールとの間に如何にして阻隔が生じ、ヒットラー一揆が何故に失敗したかと云ふ内情は、本篇の記述の目的外に存するから、こゝには省略してたゞヒットラー一派の結社の大要を述べるにとゞめておくことにする。

七 聯合國粹會

以上反動的國粹的諸運動中の最も主なる團體とその指揮者とを簡単に述べたのであるが、此の外にも大小無數の結社があつて、今一々そのすべてにつきて概略的にのべようとしても、それは容易の業ではない。であるから、こゝにはたゞ一般的に數言をのべるにとゞめる。

戦後獨逸には種々なる名稱、色々な目的の下に無數の團體が出来た。旅行クラブ、植民クラブ、運

動クラブ、軍人團、士官クラブ、水泳クラブ、射的會、將棋會、など數へ來れば際限がない。これ等の會合の中には、純然たる社交を目的とするものがあるが、一方には國粹運動を目的とするものも多數ある。それが爲めに解散を命ぜられたものも少なくない。殊にラーテナウ暗殺後に發布せられた共和國擁護法案は徹底に大小の急進的國粹結社の解散を期したものであつた。

之等の組合結社の中には、全國的なものと地方的なるものとがあつて、その全國的なものには既にのべたやうなものが主である。その外にも、全獨逸聯盟、愛國軍人同盟、國粹軍人會、など云ふやうなものがある。また彼の黒布に骸骨を白く抜いた旗章を有する「鐵胃團」など云ふものがあり「狼組」など云ふおそろしい名のものもある。ビスマルク會、ブリューヘル會と云ふやうな、英雄崇拜を中心とした會合も少くない。

地方的にかゝる結社の發達してゐるところは、何と云つてもバイエルンが一番であつてそれから東部プロシヤ、ハムブルグ、ベルリン、チューリンゲンなどである。チューリンゲン地方は共產運動の盛んであるだけその反動運動も亦盛んである。ベルリンに於て最も有名なる結社はビスマルク會、シヤロツテンブルグ自衛團、オリムピアなどがそれである。ハムブルグに於てはハムブルグ自衛團、ニーダードイツチエ聯盟など云ふものがある。東部プロシヤにはタートベライトシヤフとか乗馬クラ

ブとか郷土會とか云ふやうなものがある。チューリンゲンには「常客三角同盟」とかウイキンググループとか云ふやうなものがあつて、キツフホイザー會なども有名である。斯の如く一々あさつてみると際限がないが、政治的意味を有する秘密結社として見なされてゐる大小の結社を、全國的に合算して見ると、一九二三年八月の調べで四百十餘に上つてゐる。而して、之れに參加せる人員は不明であるが、實數二十萬であらうと云ふことである。オルガニザチオン・ツエが一つで十八萬の勢力を有した場合があるから、此の數は餘り少きに失するの觀はあるが、その方面の専門家の調査に依る數字がこれであるから、暫らく此を信することにして置く。

此の次に附記しておきたいことは、バイエルンに於ける聯合國粹會のことである。バイエルンは獨逸共和國內に於ける特殊國で、常に問題の起るところであるが、こゝにはいつも突拍子もない運動がおこるのが面白い。アイスナーの共產革命が成功して勞農政府が起つて見たり、ヒットラーの國粹革命が企てられて見たり、一寸世間の耳目を聳動する。一九一八年十二月一日獨逸議會代議士であるドクトルハイムがバイエルン獨立運動を起して人を驚ろかせた。此の運動はバイエルンを獨立せしめオーストリアを合併して一國を築きなさんとするもので、その背後にはフランスの勢力がはたらいてをつた。而して此の運動が起つて以來、バイエルンとフランスとの間には公使が交換されて、宛も獨

立國のやうな觀を呈した。此の狀態は一九二二年までつゞいて、彼のミュンヘン駐劄のフランス公使
ダールの事件が勃發して後、此の使節交換は停止された。

斯くバイエルンには、對プロシヤ感情も強い外に、一面に獨立運動も非常に強く、その爲めにバ
イエルンに於ける愛國黨の結社はすべてバイエルンを中心の愛國主義となつて活躍した。それ等の愛
國結社がだんく、數を加へて來る一方には、プロシヤとの間に於ける交渉もだんく、むづかしくなつ
て來た。殊にオルガニザチオン、ツエがバイエルンを中心にして常に中央政府の要路者に危害を加へ
たので、その都度中央政府は之が防遏策を講じラテナウ暗殺の後にはエルツベルゲルの暗殺の後には
出した共和國擁護法よりも、もつと辛辣なる法律を議會を通過せしめて、國粹黨の解散撲滅にあたつ
たので、之を機としてバイエルンと中央政府との間に激しい争ひが起り、世界の注目を惹いたことは
世人の記憶に新なるところである。

バイエルンが斯く中央政府たる共和政府に反抗するに方つてバイエルンに於ける國粹黨結社はその
連合結束を必要とするにいたり、こゝに出來上つたのが即ち聯合國粹會である。今その聯合したる十
大結社の首領及名稱を列記して見ると左の通りである。

- 一、ルーデンドルフ 士官協會

二、ウエーバー

オーバーランド

三、ルーゲ

ブリューヘル會

四、エルハルド

オルガニザチオン、ツエ

五、ロツソウ

國防軍 (バイエルンの二ヶ師團)

六、ヒットラー

國粹社會勞動黨

七、ポトマー

バイエルン王黨

八、エシエリツヒ

オルゲツシユ

九、カール

バイエルン人民黨

十、ハイム

農民黨

此の聯合は一時可成りの勢力を發揮し、バイエルンと中央政府との間に、兵力の競争が起りはせぬ
かとまで思はせたのであつたが、その途中に於てヒットラー一揆が起り、カールとヒットラーとの間
に融和一致が缺けた爲めに、その最初の勢の大なりしに似ず、もろくも聯合が破れて醜態を暴露し
た。

八 秘密結社發達の三階級

一九二三年の暮頃、バイエルンと中央政府との争ひが起つてゐる一方にザクセンの共産黨の運動が燃えて共産革命がザクセンに起るのではないかと思はれた。その頃種々なる共産黨の小結社が、ザクセン、チューリンゲン地方に於て跋扈しそれがその地方に於ける國粹團體と屢々衝突したのであつた。然るにその時に、從來人の氣附かない國粹團體のやうなものが活躍して、その秩序を維持してをつたその人の氣附かなかつた國粹團體と云ふのが、有名なる「シユワルツエ、ライヒスヴェア」と云ふのであつて、獨逸に於ける反動運動を見る上には、必らずこれを見逃してはならないのである。

一九十八年獨逸多數社會黨が政權を握つた時、共和國軍制を布かうとしたのであつたが、從來の陸軍があまりに陸軍萬能を振舞つた反感から、此の共和國軍制なるものに反對説が出て「ライヒスヴェア」と云ふ名稱、即ち國防軍又は國衛軍と云ふ意味の名に於て軍制を樹立した。しかし、その軍務に従事するのは、大體において舊軍人士官が多いことは止むを得ないことであつた。而して、ヴェルサイユ條約に依つて、常備軍十萬に制限された結果として、舊軍人の大部分は野に歸つたが、それ等のものが舊交を維持すると云ふ名の下に、種々なる軍人會や、運動クラブや、社交クラブを作つたので

あるが、それも後日になつて反動運動に關係あるものが多いところから、大抵は解散を命ぜられてしまつた。

けれども、彼等の愛國的好戰的氣分はなかなか抜けず、地方都會を通じてその連合結合に餘念がなかつた。それが所謂「シユワルツエ、ライヒスヴェア」として全國的に地歩を占むるやうになつたのである。此語を何と譯してよいかわからぬが「シユワルツエ」と云ふのは「黒」とか「闇」とか、云ふ意味でつまり「もぐりの國防軍」とでも云つたらいいかも知れない。目に見えぬ軍隊と云ふ意味である。これが地方に於ける共産運動や、或は他の過激運動を制止する大きな勢力となつてゐると云ふことは興味ある現象といはねばならない。

それで獨逸の秘密結社の發達の跡を一瞥して見ると、大體に於てこれを三期に區分することが出来る。

- 第一期 革命よりカップ一揆まで
- 第二期 カップ一揆よりルール占領まで
- 第三期 ルール占領よりシユワルツエ、ライヒスヴェアの出現まで
- 第一期はアインゾナーヴェア（自衛團）の活躍時代である。（アインゾナーヴェアを自衛團

と譯するのは面白くないが便宜上さうした。アインヅォーナーヴェアと並んで大きな勢力を有したものに、ゼルブスト、シユツツ、ブンドと云ふのがあつて、此方が文字通り自衛團にあたる。第二期は暗殺時代でエルハルドのオルガニンチオン、ツエのあばれ廻つた時である。その結果としてあらゆる反動團體の解散を見るに至つたが、ルール占領と共に起つた、獨逸の舉國一致運動及び愛國心の喚起は勃然として愛國團體國粹團體反動團體を擡頭せしめ、遂にそれがバイエルンの革命、即ちヒットラー一揆となつたのである。此のヒットラー一揆はザクセンの共産運動と前後したもので、此騒ぎの間に今所謂シユワルツエ、ライヒスヴェアなるものが世間の注目を惹くやうになつたのである。而して今日は實に此のシユワルツエ、ライヒスヴェアの時代である。

九 秘密結社の通有性

獨逸に於ける反動的國粹的秘結社の發達の跡を見て注目すべき點が少くない。例へば之等の反動運動の大部分が、すべてその根をバイエルンに有し、その本部が多くミュンヘン又はニュルンベルグにあることである。國粹運動の淵源地は正にバイエルンなのである。而して、之等の國粹團體の通有性は、

一、ボルシエヴィズム、マルクシズムに反對すること

二、獨逸共和國憲法を改正すること

三、ユダヤ人排斥

などいふ要點に存し、その目的を達する爲には直接行動を辭せず、一切の組織行動は絶対服従を原則とする獨裁主義に根ざしてゐる。彼等が從來試みたる暗殺、私刑其他の行動に徴すれば、そのなすところよくアメリカに於けるクー・クラックス・クランに似通つてゐる。クー・クラックス・クランは元來が選舉の邪魔を目的とし、ユダヤ人及びカトリック教徒の撲滅を期してゐるのであるが、それが時々脱線して他の方面に迄暴力が及ぶところ、獨逸の國粹者流の運動も全く之に類し、たゞ獨逸に於てはカトリックを背景に新教徒に向つてゐるかの觀ある點が少し異つてゐる。

之等の秘結社の組織は決して小さいものではない。その大なる組織を應用する經費は何處から出るかと云へば、すべてが大工業家大地主などから出てゐる。それに關してはこれまで公にされた記録や、裁判の判決文などを見ると、よくその出所の系統が明らかになつてゐる。金額なども可成り明細なものが發表されてゐるが、それはたゞ外間に現はただけであつて、大部分は不明なるものが多い。而してその金錢交附の形式は、直接現金で手から手に渡してゐるものもあるが、大きなものは、之等

秘密結社の多くが、エルハルドの木工會社の如く、ロツスバツハの案内所の如く、大きな會社とか、銀行とか、さうした商賣上の會社事務所になつてゐるので、取引の形で交附されてゐる。

大工業家とか地主とか云ふものが、之を援助する理由は、單にその國粹的精神から來てゐるばかりでなく、その主義打算の上から來てゐる。即ち、彼等資本家は、その自家の利益を完全に擁護せんが爲めには、労働者擁護の金城鐵壁たる獨逸共和國憲法を改正し、その労働法を改めることが最も必要である。そこで彼等は彼のフランスのルール占領が斷行されると同時に、此の國家的大事を、自己の利益擁護に利用して此の機會を以て愛國熱を喚起し、社會黨を抑へつけようと試みた、それが爲めに國粹運動が俄然として起つて來たのである。彼等資本家が此の際彼等國粹運動者に投じた金額は決して僅少ではなかつたのである。

大正十二年秋獨逸政府が兵力を以てザクセンの社會黨共產黨聯合政府を覆した時、社會黨がこれを難詰して聯合から分離し、ザクセンに對して取つた行動を何故にバイエルンに對してとらぬかと迫りバイエルンのカール政府の倒壊を要求したのは、つまるところ國粹運動の背後に潜む資本家の運動に痛棒を加へんが爲に外ならなかつた。

獨逸に於ける國粹運動は、極めて急進的になつて來てゐるが、その一般社會に於ける信用は決して大なるものではなく、殊にヒットラー一揆の失敗以來信用地に墮したかの觀がある。過般の總選舉に於て、共產黨が急激に増加したのは、思想の左傾と見るよりも、一時猛然と起つた國粹運動に對する反動であるとする方が正しいと論じてゐる人もある位である。

今日の獨逸人は、永い間の不景氣時代、インフラチオン時代、反動運動共產運動の時代を経験して來た後のこととして、一般に落ちつきを求めてゐる。故に今日可成り盛んに宣傳されつゝある共產運動にしても、國粹運動にしても、その餘りに兩極端に走つてゐるところから一般的の信用は甚だ薄くなつて來てゐる。故に折角の國粹者流も今日は共產黨の急進派と同一視されてゐると云ふ有様で、議會に於ても此の左右兩派の騷擾振り、傍聴者の書入れの一つになつてゐる次第である。

されば、國粹的秘結社の全盛時代は今日に於ては過ぎ去りつゝあるかに見え、これよりも落ちつてゐる健全性が見ゆるシユワルツエ、ライヒスヴェアなるものが今後如何なる發達をなすかは一般の注目の焦點となつてゐる。

第一三 ルイゼ皇后の誕生日

三月十日（一九二二年大正十年）は、ルイゼ皇后の誕生記念日であつて、チーアガルテンの皇后の大理石像の前には、人が群れてゐた。晴れ渡つた春の空には、間々白い雲が断れ々に飛んで居た。未だ芽を吹かぬ楡の大木が、一面に枯枝を伸ばして、網を張つたやうに空を限つてゐる。大理石像の周圍一面は花環花束を以て蓋はれ、高い香りが此邊一帶を包んでゐる。ドルンの配所に哀れな日を送つてゐる前獨逸皇帝ウイヘルム二世から送られた大きな花環が、群がる人々の好奇心を唆つてゐる。集り来る人々の多くは女で、女生徒を引卒して禮拜に来る小學校の先生なども少くない。繪葉書賣りがしきりに客を呼んでゐる。風車など賣る風流人も見える。元の貴族であらう、禮服を纏ふて恭しく皇后の像に禮拜して去る半白の夫妻も幾組となく見えた。勿論軍服の嚴めしい人々も少からずあつた。

ルイゼ皇后は、獨逸人の人氣を一身に集めてゐる名后である。殊に女がこれを尊んでゐる。心から服してゐる。帝政が倒れて社會主義者の天下になつた今日でも、ルイゼ皇后を慕ふ心は失せぬ。その類まれな美であつたと云ふ點に於て、同時に非常な女丈夫であつた云ふ點に於て、更にプロシヤをナ

ボレオンの蹂躪から免かれしめたと云ふ點に於て、プロシヤの婦人は滿腔の敬意と感謝とを表してゐる、今こゝに獻けられた花束の一つに、葉書大の厚い美しい紙に、筆蹟美事に短詩を記したものがあ

ルイゼよ！ 世界が生める女の中で

最も貴き最も美しきルイゼよ

祝福の眼を輝かして

われ等を見下して居るルイゼよ

爾があはれの子なるわれらの爲めに

今一度祈れ今一度甦れ

而してわれ等に新獨逸の生命

生命の榮光をかゞやかせ

譯語も拙いが原の詩もあまりうまくない。しかし、ルイゼ皇后に對する憧憬の熱烈さは想像される。兒玉花外であつたら、赤き血を燃させと吟することであらう。基督敎國の國民だけに、祝福とか榮光とか云ふなまぬるい文字を使つてゐる。

ルイゼ皇后は、ナポレオンが露西亞征伐に行く途中、プロイセンをも蹂躪して行かうとした危機に際して、一夜饗宴の歡樂をつくした後に、旅情を慰めて巧みにナポレオンの心を奪ひ、祖國を救ふたのである。そのナポレオンが宿つたシャールottenブルグの城に行つて見ると、ナポレオンが寢たルイゼ皇后の寢室の寢臺は取り除かれて、たゞその室のみが昔のまゝになつてゐる。案内者は云ふ「ナポレオンがこゝに宿つて以來、皇后は再び決して此の部屋には寢なかつた」と。

此の事實は史家が語る。しかし、獨逸人はこれを信じない。殊に婦人は斷じてこれを否定する。これを語ると獨逸の女は眞赤になつて怒ります。獨逸の常盤御前ルイゼ皇后たるもの、獨逸婦人の此の信仰に感銘せざるまい。

此のシャールottenブルグの城に、喇叭時計といふ頗る大きなオルガン時計がある。時間が來ると喇叭が鳴り出し、太鼓が轟ろき、仰山な大樂隊が始る珍品である。全く珍しいもので、又面白いものである。ナポレオンがこゝに宿つた時に、夜中に此の時計がブカブカドン／＼やり始めたので、彼はプロシヤ兵の夜襲と心得て慌て、寢臺の上に飛び起きたと云ふ逸話が残つてゐる、甘い夢を破られたのが一寸癢に障つたことであらう。

佛蘭西人のルイゼ皇后論に曰く、ルイゼ皇后は幸福者である。懶巧者である。彼は世界第一の英雄

と親しんだ。しかも、獨逸人はその不貞なる點を反つて、女丈夫として有難しとしこれを貴ぶ。所謂人間の行動は時と場合の利用の巧拙に依つて、善評も得られ惡評も受ける。と、評者も亦言葉の言ひ廻しの如何によつて、どうにでもなるものだ。人間の批評は到底見戯にすぎぬ。
木が光る。大理石像が輝やく。水が冷たい。その水を隔てて皇后の夫君の大理石像が向ひ合ひに立つてゐる。おとなしい人であつたと云ふ。

第一四 ヴィクトリア皇后の死

一九二二年（大正十年）四月三日の朝、獨逸前皇后アウグステ・ヴィクトリア陛下は、氣分が少し宜かつたので、牀褥の上に起き上つた。暖かい柔らかな春の日は、去年百五十萬圓ほどで買ひ取つたドルンの城の病室に一樣に射し込んでゐた。外には風もなかつた。大空を見たい大自然に觸れたいといふ欲念は、お附の者に命じて身をヴェランダの上に運ばせた。カイゼルもその側に付き添つてゐた。皇后陛下は、芽を吹きかけた草や木が、今盛りかけた李桃や洋櫻の花などに、生の歡喜をしみじみと味ひ、大自然の空氣を、疲れた弱り果てた胸の中に一杯に吸ひ込んだ。皇后は心臓を病んでゐたのである。暫くはたゞ日の光と潔い大氣の中に浸つてゐたが、皇后は低いいたましい聲でふと「なぜわたしは再び故郷を見ることが出来ないのだらう」と獨語した。「故郷」の意味は深長であつた。

カイゼリンの永い病氣の間、カイゼルは常にその側を離れることはなかつた。寢室も常に同一で床を並べて居た。朝夕の散歩の時の外は、いつもカイゼリンの側から離れることなく、常に慰めいたはる人となつてゐた。カイゼルは殆んど安眠を執ることが出来なかつた。それほどにカイゼリンの病氣には心を勞してゐた。カイゼリンは此のカイゼルの心盡しに對し常に感謝の眼を潤ほしてゐた。

カイゼルは、今のカイゼリンの獨語をハツと聞いた。彼は思はずカイゼリンの手を固く握つて、つとその顔を見つめたが、やがて自らの顔を横へそむけた。その眼は曇つてゐた。カイゼルの表情には明らかにカイゼリンの最期近きを悼む蔭が流れてゐた。それと氣づいたものか、カイゼリンはカイゼルの手を握り返して、

「わたしは死にません、あなたを獨り残しては先きに死んで行くわけにはまゐりません。一體わたし達はこれからどうなるのでせう」と流石に女らしくせき込んで云つた。

それから一週間後である。四月十一日の午前六時十分、前獨逸皇后にして前普魯西王后たるアウグステ・ヴィクトリア陛下は、配所に數奇な一生を畢つた。その死の前夜、カイゼルは一睡だにしなかつた。しかも、終始黙々として一語だに發しなかつた。新聞通信記者の代表者が、始終陛下の側に付きそひ最後の埋葬までも見まもる人たるケラー伯爵夫人や、ランツアウ伯爵夫人に面會を求めて、カイゼリンの近況をたづねたが、以上のやうな事の外は多くを語らず、カイゼルの事に關しても「最愛の人を亡つた陛下の御心中は、われ／＼外間の人が想像することの出来ないものであります。ましてや始終黙々一語も發しない人の胸懷は、とても申上ること何も出来ません」と答へたさうであるが、

此の言葉は最もよくカイゼルの心事を推察するに足る言葉である。

カイゼリンの死は悼ましい死である。彼女の夫は世界を掻き擾し、世界の怨嗟の中心人物とはなつたが、彼女は少くともその妻として、母として、家婦として、貞淑賢明にして温良なる立派な婦人であつたことは何人も否まぬところである。カイゼルの剛情不屈の性は、時々その家庭に波瀾を捲き起したことがあるとは言へ、彼女は確かに尊敬すべき婦人の一人であつた。カイゼルの半身として、カイゼルをカイゼルたらしむるに、十分なる女性であつた。カイゼルは戦に負けたるが故に最後まで憎まれ者となるの運命を持つに至つたが、勝てばそれが顛倒するのである。多年獨逸帝國の皇后として、勢威世界を壓してゐた彼女の今の最期は如何にも悲惨である。男なれば忍ぶべきことも女なるが故に忍び難いことが多かつたに相違ない。世界の心ある人々が、悉く彼女に一片同情の悼意を表したのも無理がない。

カイゼリンの死に對する獨逸人の態度はどうであつたか。新聞紙の態度の如きも區々で、或ものは連日殆ど紙面の全部を此の爲めに割き、或ものは僅に數行その死を報じたに過ぎなかつた。しかし一般民衆の態度としては勞働者の外は悉く同情の意を表して居つた。殊に彼女が女性なるが故に、社會黨系の人からまでも、相當の悼意を表せられてゐる觀があつた。街を歩いて見ると弔旗を掲げ花

環を飾つてゐる花屋などもあつた。シユーネベルグと、シャールロッテンブルグとかウイールマースドルフと云ふ方面では、殆んど戸毎に弔旗を出し、深甚の弔意を表してゐた。勞働者町にては弔旗を見られなかつた。シユーネベルグでは區廳の屋頭に大弔旗を掲げてゐた。若い學生の間に表された弔意は意外であつた。概して一般哀悼の念が意外に強く表現されたので、或新聞などはカイゼリンの死後三日目位から慌てて色々な死事などを書き出したものなどもあつた。

カイゼリンの遺骸は、ボツツダムのサンスウシー公園内の、新宮殿前にあるアンテーカーン、テムベルに葬ることになつた。「サンスウシー」は佛蘭西語で「無憂」と云ふことださうである。此の公園の大きく廣く立派なことは驚くべきもので、こゝには嘗てフレデリック大王の住んで居つた平屋の宮殿がある。此の宮殿に大王自ら名附けて「サンスウシー」と云つたので「無憂莊」とでも譯して置いたらといふと思ふ。此の無憂莊は、クノーベルスドルフ侯が大王の爲めに寄進したもので、大王はこゝで佛蘭西のヴォルテールを對手に勉強もし遊樂もして呑氣に日を送つたところである。此の無憂莊は餘り大きくない建物であるが、之を取りまいてゐる公園は極めて大きい。

こゝに新宮殿と云ふものは又立派なものである。此の中にある貝の廣間などと云ふものを見ると、一寸その贅に驚かされる。此の宮殿で忘れることの出来ないことは、彼のセラヴエヴの事件が勃發し

た時に、カイゼルが全國の軍人大官實業家學者あらゆる代表者を招集して、所謂ボツダム會議を開催し、開戦の決心を定めたところである、と云ふことである。それは一九一四年七月五日のことであつた。而してセルビヤに對する最後通牒は七月二十二日に發せられたのである。

此の新宮殿前面左側のところに小さな石造の御堂がある。これがアンテークテンブルで、これはフレデリック大王が古物を蒐集するために作つた由緒あるものである。こゝには用のないことであるが、此の直ぐ近くに、小さな日本の田舎家が建てられてあつて、カイゼルが散歩の折など休息したところがある。葦葺の可愛らしい純日本の百姓家であるが、此の間行つて見た時には物置代りに色々なガラクタが抛り込まれてあつた。

ボツダムは普魯西陸軍の搖籃の地で、フレデリック、ウイヘルム一世が、こゝにはじめて彼の制服と訓練とを創始したのである。普魯西の軍國主義はこゝから生れたと云つてもよい。而してその軍國主義を亡ぼした世界大戦の緒口には、前述の如く此處の新宮殿に於て決心の臍を固められた。そこに運命の人カイゼリン、アウグステ、ヴィクトリヤ陛下は歸葬されるのである。聴くが如くんばカイゼルも亦その遺骨を同じ御堂の中に休めるのだと云ふ。彼此思ひ合せると、普魯西の軍國主義はこゝに始まつてこゝに終るの觀がある。

ドルンに於けるカイゼリンの告別式は、ホーヘンツォル・レルン家の人々と親近の人々とに依つて淋しく行はれた。カイゼリンの靈柩はカイゼルを初め、皇太子、皇子、皇女、皇孫其他親近の人々に護られて、ドルンの城を出で、ドルンの小さな田舎停車場に運ばれた。その沿道は遠近から來り集まつた見物人で此の村始まつて以來の雜踏を極めた。靈柩は獨逸からわざわざやつて來た、舊近衛軍の一隊がこれを護つた。

停車場に着いて靈柩が特別列車に移乗されると、カイゼルは皇太子其他三人の皇子皇女と共に車中に入り、最後の黙禱をして徐ろに列車から出た。その時の面容は形容の出来ない程蒼白い、いたましい表情であつた。而して意識を失へる人のやうに、皇太子などの手に支へられて自動車に乗つた、此の時の光景を面の當り見た人の談に「自分は生れて以來あの時程悲痛に襲はれたことはない」と云つてゐる。

四月十九日は大葬儀。この日はよく晴れ渡つた。伯林ボツダム行きは午前四時頃から満員があつた、二三日前から泊りがけにボツダムに行つてゐる者もあつた。諸方から群がり集つた數は算を知らぬ。ボツダムの町は全街、悉く喪装してゐた。ウイルドパーク停車場からサンスウシーに到る沿道は、黎明から人の垣を築き、沿道に椅子を持ち出すもの、梯子を擔ぎ出すもの、空箱を足

臺にするもの、木に攀ぢ登るもの、垣に這ひ上るもの、大へんな混雑である。

アンテークンテンベル附近サンクスウシー公園内の沿道には、久し振りに盛装した軍人、従軍章や勳章を飾つた學者、青年團、女學生、小學生等の團體が十重二十重に垣を作つてゐる。色々な隊旗や軍旗や校旗や幟などが樹立してゐるその彩りがまた一しほの映えである。どこへ行つても人の垣、人の海である。殊に眼を惹くのは、戦後全廢された軍人が、昔の盛装で昔の勳章を佩びてゐることで、見るとそれがみな古びて、汗と垢と塵で汚れてゐるのも悼ましい、群がる人々は悉く前帝國の憧憬者である。此の日ばかりは勞働者の肩幅の狭いこと夥しい。

午前九時四十五分、全國の寺院の鐘が鳴り出すと共に、ウイルドパークの停車場からの葬りの式への行列が始まつた。沿道に群る人々の數は多いが、すべて黙々として靜まり返つてゐること會堂内の默禱式のやうである。その靜かな群衆の中を、警衛軍、花環花束の一隊、將校團皇后軍、勳章捧持者と云つた風に順序正しく靜かに列が進む。その後には四頭曳の靈柩車濃紫の被ひに包まれ最高警官に導かれて来る。その次にはカイゼル及皇太子の名代として皇太子妃が、黒装して徒歩で續く。つゞいてはアーダルベルト親王以下皇族一統、貴族高官の一隊が従ふ。その後には元帥の盛装に、元帥杖を右手劍把を左に握つて徒歩で偉軀を運んで來たのは、ヒンデンブルグ將軍である。將軍が來ると群衆が動

揺めいて、手を舉げ帽子を振つて興奮する。しかし聲を舉げたり喧噪を敢てするものゝなかつたのは場合が場合だけに慎んだのであらう。元帥と並んでやつて來たのは將軍の智謀ルーデンドルフ將軍である。その次にはチルピッツ提督、マツケンゼン將軍、ルーヴェンフェルド將軍、フライヘル將軍等海陸の名將軍三十餘が列なる。最後には前帝國の次官武官等歴々が續いた。表面は一人の葬儀として行はれたのであるが、事實は「カイゼリンの葬儀」として恥かしからぬ立派な威容を示した。

アンテークンテムベルに於ける葬儀は極めて莊嚴肅肅に行はれた。ドリアンダー博士の説教は非常な感激を人々に與へた。博士の説教は人としてのカイゼリンを賞揚し、人としての死を祝福したものであつた。「薔薇は美しく咲く。しかも嵐に吹き散らされる運命を持つてゐる」と云ふ、比喩がその骨子であつた。カイゼリンもこの説教で冥するに足るものがあるであらうと思はれる。岑は決して残念な心を持つてゐるのではない。正直に自らの本性を發露するだけのことである。亡びの道は嵐自身も同じ軌道を辿らねばならぬと云ふのである。

自分にはからずもカイゼリンの大葬儀に會した。而して、獨逸人のカイゼルに對する熱の未だ未だ甚だ深酷なるものがあるを知つた。しかし自分は思ふ。ホーヘンツォルレルン家の再興は永久に不可能である。カイゼルの復活は不可能である。世界が變つたからである。カイゼルの復活の道は外に求

めなければならぬ。それは獨逸人の此のカイゼルに對する忠節の信念を、その力をその赤誠を獨逸といふ祖國、獨逸人といふ民族の發展の爲めに全力を傾注することではなければならぬ。それがカイゼルの理想の實現に外ならぬ。それがカイゼルの復活に外ならぬ。所詮民族は生き且つ榮えなければならぬのだ。主義とか理想とか云ふものは常に動搖變遷は免れぬが、民族は生存せなければならぬと云ふことは動かぬ。帝國主義が共和主義に變つても、民主主義に變つても、社會主義に變つても、獨逸人と云ふ民族は永久に變り得ないのだ。問題は獨逸民族の種の保存繁榮にある。主義理想の實現そのものにあるのではない。

第一五 戰勝記念柱爆破の隱謀

一 共和廣場

柏林の真中程、チアガルトンの東北隅の廣場を、共和廣場と言ふ。此の廣場の東部には宏壯雄大な石造の國會議事堂が、動かばこそと頑と控へてゐる。議事堂の真正面には、これ亦途徹もない大きな眞黒な銅像が傲慢無類にふんぞり反つてゐる。これが鐵血宰相ビスマルクのそれで、見るからに頑固なものである。

此の銅像は一九〇一年に建てられたもので、ラインホウルド・ベエガスの手に成つたものである。臺から比公の頸の天邊までの高さが八十呎で、ビスマルクだけの身長が二十呎ある。此の銅像の礎臺が大變なものだ、左右には噴泉を控えてゐるが、此の噴泉に臨んでゐる人員や漁夫の像、比公の脚下に臺を掩いてゐる色々な人間の像、これ等が如何にも仰々しく物々しく大袈裟に出来てゐる。此の銅像一つの建築費があつたら、上野の西郷さんの銅像が十五六或はそれ以上出来るかも知れぬ。此の銅像の前に立つて、北東の方を見やると、直ぐ鼻先きに白い小ぢんまりとした建物があるが、これが我

大日本帝國の大使館である。

ビスマルクの銅像と眞直に向ひ合つて、廣場の西邊に眞白な大理石の大彫像がある。此彫像はビスマルクのそれとは正反對に、俯向き勝ちな、兩手を重ねて前に軽く垂れた如何にも謙遜なやさしい立像である。ビスマルクが、或時、ウキルヘルム大王やその他歴々の人物が集まつてるところで「乃公は乃公の頭に接吻することが出来る」と眞面目に言ふので「そんなことが出来るものか、出来るものならやつて見せろ」と云ふと、比公は「見るとも」と云ひながら、づか／＼とモルトケ將軍の側に行き、グイトその首を右腕で抱へてその頭に接吻し「これが乃公の頭である」と莞爾と笑つたことがあつた。今こゝに立つてゐる此の謙遜な大理石像は、そのビスマルクの頭であり、普魯西軍の軍神であり、獨逸建國の偉人であるところの、モルトケ將軍である。

此の二つの此の間の距離の眞中を取つて、廣場の北邊に在る大きな銅像は、ビスマルク、モルトケと共に、獨逸建國の偉人と稱せられる、ロウン將軍である。此のロウン將軍の銅像に向ひ合つて、西の邊には誰の銅像があるかと云ふと、そんなものはない、眞直に切り開かれた立派な道路がある。これが有名な戦勝記念道路である。戦勝記念道路は、元々、チアガルテンの楡や山毛榉や槐の林を切り開いたものであるから、兩側は一面の林である。而して、此の路の兩側には、獨逸の歴史を形作る國

王や大選舉侯など、歴代の主權者の大理石像が、三十二基春日様の石燈籠式にすなり並んでゐる。それが春は青葉の陰に白く浮び、秋は紅葉の中に白く輝く。

二 戦勝記念柱

ビスマルクの銅像と、モルトケの石像とを直線で結び、ロウンの銅像から垂線を引つ張つた接合點即ち廣場の眞中に、天に届けと聳え立つてゐる大圓柱がある。これこそ佛蘭西は巴里のエトアアルロ佛國民の永遠の誇りを築き上げた凱旋門に面突き合せて、獨逸國民の永遠の誇りを、圓柱頭を蓋へる大鷲の上に、月桂冠を右手に、十字架頭の國旗を左手に握つた四十八呎の全身金鍍金の勝利の神に輝かしてゐる戦勝記念柱である。

戦勝記念柱は、一八七〇年の普佛戰爭の大勝と獨逸帝國の建設とを記念する爲めに、巨額の金を費して建てたものである。ストラックの設計で、一八七三年の九月二日に落成した、建築材料は赤黒色の大理石と獨逸特産の砂岩と青銅とを巧みに配したもので、その高さ二百呎に及んでゐる。二十二呎の方形の礎臺の四面には、戦畫を刻み込んだ青銅板が嵌められてゐる。東面ビスマルクの銅像に向つた方には、一八六四年の丁抹戰爭が鐫られてゐるが、これはカランドレイの作である。北面ロウン

5
3

將軍の銅像に向つた方には、シユルソが一八六六年のウニヒグレッツの戦を描き、西面モルトケ將軍に面した方には一八七〇年のセダンの戦と巴里入城の光景をカイゼルが寫し出してある。南面戦勝記念道路に向つた方、即ち、戦勝記念柱の正面に當る方には、ヴォルフが一八七一年の獨逸軍伯林凱旋の盛觀を描いてある。この礎臺の上に更に柱廊臺が重ねられてゐるが、此の柱廊はヴェルナアの考案でモザイクになつてゐる。一八七〇年の戦争と獨逸帝國の回復を精巧に寫し出した美事なものである。此の柱廊臺から黒圓柱が巍然と突き出して居つて、その天邊の勝利の神はドレエクの作で、金色燦然常住伯林の空に光り輝いてゐる。

圓柱の内側は廻旋階段になつて居つて、天頂勝利の神の足下まで上ることが出来る。こゝから俯瞰すると、先づチイアガルテンの鬱蒼たる林が眼に影する。戦勝記念道路が眼に入る。諸所の教會の高塔が見える。市街が見える。高いところから下を見下ろすのは痛快なものであるが、獨逸人がこゝから見下ろす感じは特別であると思ふ。西の方を遠く見渡すと涯は霞んで見えぬけれども、眞正面に佛蘭西の巴里を睨む快感は何とも言へぬと歌つた三文詩人もある。巴里の凱旋門が獨逸への面當なら、伯林の戦勝記念柱は佛蘭西への面當である。

佛蘭西人は凱旋門を見て、佛國は常に斯の如く強しと自惚れ、獨逸人は戦勝記念柱を見て、獨逸は常に斯の如く強しと自負する。佛蘭西魂は凱旋門で養はれ獨逸魂は戦勝記念柱で鍛へられる。近世の佛國と獨逸とは、全く此の二つの建築に國民の自負の中心が集まつてゐる。佛蘭西の強さは凱旋門から出で、獨逸の強さは戦勝記念柱から出でゐる。その形體の相違はあれ、此の兩國の國民的結合の中心と士氣の中心とは此の二つの建築にある。單なる石や土や金の積み重ねであり、偶像に過ぎないのではあるが、これに凱旋門と名が付き、戦勝記念と名が付けば、生命ある靈力ある神の如くに國民を導くのは妙なことである。

佛蘭西は凱旋門を永遠に護らねばならぬ。獨逸は永遠に戦勝記念柱を護らねばならぬ。ナポレオンが死んでも、ビスマルクが死んでも、帝政が倒れても、將た又現在の共和制が亡びることがあつても此の永遠の誇りであり光である二大建築は、必ずや此の兩國の或力となり或光となつて、どこまでも此の國民に付き纏つて行くことであらう。此の偶像に對する鑑賞渴仰の心的内容は變つて行くに相違ないが、國民の心が竟に此の偶像の周圍から離れ去ることの出来ない執着は不變である。國民の心がこゝに執着する限り、佛獨の仲は容易に和解することは出来ぬ。アルサス・ローレンが此の兩國の永遠の禍であるが如く、此の二つの建築も亦兩國の永遠の禍であるとも云へる。しかし、敵手なくして競争は出来ぬ。競争なくして生存は出来ぬ。生存なくして文明も藝術も何もあり得ない。反目

5
3

嫉視は生存の姿である。佛獨兩國の嫉視反目は兩國の重荷であり、苦患であらうが、これやがて兩國の幸福であり慰樂であらねばならぬ。

倫敦の眞中に突立つてゐるネルソンの像は、宛かも此の二つの建築の批判者であり、行司役であり支配者であるが如くに見える。お前達が喧嘩をするのは悪い事でない。喧嘩をする爲めに金も蓄め力も練り知識も磨く。併しその喧嘩が極端になつて、一方が馬鹿に強くなり一方が馬鹿に弱くなつてへたばつて了ふと困るから、その時には乃公がいゝ具合に裁いてやる。決してどちらに最負するとは言はぬ。何でも乃公の都合のいゝやうに振舞つて見せると空嘯いてゐるやうである。その圖抜けて高いのも此の二つの建築を特に見下す爲めかと思はれるほどである。

何處に行つてもこれ見よがしの記念建築がある。その建築が何時も國民の心を收攬してゐる。日本には何があるか、木立の奥深く謙讓と、幽殿とを以て鎮まつてゐる明治神宮がある。日本國民の心はこゝに繋がつてゐる。どこまでも朴實に、どこまでも謙讓に、どこまでも靜的に、どこまでも幽嚴にこれが日本の精神であり生命である。日露戦争に勝つても凱旋門は造らぬ。東郷大將が東洋のネルソンでも、圓大柱の天邊に奉り上げて、烏鳶の糞垂れ場とはせぬ。

三 記念柱爆破の失敗

一九二二年（大正十年）三月十三日午前十時から十一時までの間に於て、戦勝記念柱の爆破を企てた者がある。佛蘭西に凱旋門がある限り、獨逸にはなくてはならない。此の戦勝記念柱を打ち毀さうとした者がある。

回旋階段の上り口から、數階上の一隅に爆彈を装置して、これを廣告ビラを貼つた厚い馬糞紙で蓋ひ、これに八尺ばかりの點火繩を引張つて、それに點火して逃げ去つた。その繩が半分程燃えて今四分間を経過すれば、正に大爆發をしようとして云ふ、危機一髪の際に、一人の巡回の巡查が、之を發見して火を消し止めたので事なきを得た。政府は直ちに、五萬マルクの懸賞でその犯人の捜査を始めた。此日は日曜日であつた。空氣は少し冷たかつた、よく晴れて散歩には持つて來いの日であつた。戦勝記念柱を取捨く廣場には、未だ朝ではあつたが、可成り人が出てゐた。市街の風光を見下すために記念柱の天邊に上つてゐる人も二三十人はあつた。若し不幸にして此の爆彈が破裂したら、人命の犠牲も決して少くはなかつたらう。此の危険極まる隱謀は誰がやつたか、巴里會議で巨額の賠償要求を決議しても、倫敦會議でいよく獨逸に罰金申付けてやらうと云ふ際であつても、容易に顔色を動か

さなかつた獨逸人も、此の陰謀に對しては非常な興奮の色を示した、朝野共に緊張した。

事件の起つた當時は、色々な憶測が傳へられた。佛蘭西人が猶太人か露西亞人か何れ外國人が、企てたことであらうと云ふ説も大分あつた。又、コンミニストの仕業であらうといふ説も有力であつた。賠償問題でいらくしてゐた獨逸人の胸の中には、屹度佛蘭西がやつたことに相違ないと斷案をきめて佛蘭西人を怨んでゐる者も大分あつた。何れにせよ此の陰謀に對する獨逸人の憤慨の様子は恐ろしいやうであつた。自分は此の時にふと思ふた「獨逸は未だ帝國である」と。

此の陰謀の曝露と前後して、例の三月暴動が勃發したアイスレベン・ハレエなど中部獨逸を中心にして、全國に亘るコンミニストの大暴動が、全獨逸の人心を脅やかした。この月はカッブ一揆の一周年目に當つてゐることとして、さてこそ大事件になるかと人心は可成り動搖した。しかし、政府は存外冷静の態度を示し、悠々警備の手を廻した。ロートフアネやフライハイトなど云ふ、コンミニストの機關新聞は一切發賣を禁止し、軍隊を配し、巧みに之を鎮撫した。伯林に於ても、各官省のある所、要所々々の街路などは、鐵條網と武装した兵士で護られた。戦勝記念柱爆破の陰謀は、此のコンミニストの企てであることが明瞭になつた。

あつた。ヒュウルツは一種の暴動狂である。彼は徹底的のコンミニストである。而して又、群衆を驅つて暴動掠奪をなすことが、彼には非常な愉快であり趣味である。彼をロビンフッドと呼び、或は群盜の隊長と呼ぶのは、これから來たのである。彼には成敗など一向關するところでない。成ると成らざるとを問はず、暴動を使喚し掠奪を行ふことそれ自身が面白のである。しかも、彼には一種の不思議な力があつて、群衆を煽動して亂をなさしむるの魔力は恐るべきものである。彼のコンミニストとしての言動と、煽動家としての言動とに、時々面白い矛盾が生ずるのは此の二重の性格から來てゐる。

彼はまた、神出鬼没の活動を敢てする、東奔西走電光の如く去り、石火の如く現はる、神速は彼を捕へんとする官憲の常に困じ果てたところである。彼は掠奪を敢てするも自らは多くの所有を要求せぬ彼は掠奪を行ふ毎に、我に十萬マルクを與へよと部下に言ふ、その十萬マルクを得るや、彼は之をアイスシエベンに匿まへる妻に、化粧料として送るのを常としてゐた。彼が暴動を企てるや、すべて破壊を要求し、痛快事を求めてやまぬ。三月の暴動に於て到る處爆彈の亂投を見たのは、此の痛快を喜ぶ彼の習癖が至らしめたものと言へる。伯林に於ても三月二十七日午前一時半頃、シャロットテンブルグの六十六管橋（ホルツエンドルフ鐵橋）爆破を企てたが、鐵橋は幸ひに無事であつた。附近の家屋

はその震動で窓硝子が滅茶苦茶に破壊され、往來は硝子の破片で一杯であつた。可成り遠くまでその損害を蒙つた。橋の袂にあつた公衆便所は跡方もなく爆破され、その跡は大きな穴になつてゐた。ヒユルツは懸賞で捕縛を企てたが、彼を取押へることは非常に困難であつた。しかし暴動後一ヶ月を経て彼はとうとう柏林に於て捕縛された。戦勝記念柱爆破の陰謀も、彼の企てたところであつた。

四 人類共同の敵

階級を破り、資本を破り、文明を破り、一切を破ることを企て能事とするが如く見ゆるコンミュニストの仕業として、戦勝記念柱爆破を企てたことは別に怪しとするに足らぬが、これを破壊して果して何の意義を齎らすか。成程戦勝記念柱は軍國主義の萌え出しに出来たもので、謂はゞ軍國主義の元祖大元締である。佛蘭西の凱旋門にしても、英國のネルソン塔にしても、白耳義にある獅子ヶ丘にしても何れも戦争の記念ならざるはない。過去が氣に喰はぬ。軍國主義の形が氣に喰はぬ、今の状態が氣に喰はぬとあつて、これ等の記念物まで破壊する必要があらうか。偶像そのものに果してどれだけの罪惡があるだらうか、偶像崇拜は人間そのものの主觀的心理状態である。偶像崇拜に缺點ありとするも、偶像そのものに罪ありとなすことは出来ぬ。

安房宮は焼けても、安房の心理は永遠に亡びぬ。ヴェルサイユ宮殿は現存しても、ルイの誇りは今あるわけでない。文明の進むに連れて、偶像崇拜の心が失せて行く。阿彌陀の像から人心が去ることがあり、戦勝記念柱に獨逸の人心が集まらぬことがあるかも知れぬ。しかも其の場合に於て、ピラミッドに意義なしと云へやうか。コロシウムに意義なしと言へやうか、萬里の長城に意義なしと云へやうか。戦勝記念柱に意義なしと言へやうか。更に進んで、民族的觀念がなくなり、世界全體の人類が一體同胞の心理に生きるやうな時代が未來に現出したと假定して、その新文明の人々に之等の過去の遺物が全然無意義であり、無價値であらうか。

戦勝記念柱を見なすに、戦争の記念物、軍國主義思想の具體的表現の形象として見なせば、コンミユニストや或は又その他の反對の思想を持つてゐる者から見れば、癩に障つたり眼障りになつたりするかも知れぬ。しかし一步を高く進めて、これを高く且つ遠くから望観する時に、藝術として、美術として之に如何の考察を下すべきであらうか。

戦勝記念柱にせよ、凱旋門にせよ、ネルソン塔にせよ。これが建築を思ひ立つたものは、戦争に關係した者、或は戦争謳歌の人々であるかも知れぬ。政治家、軍人、戦争謳歌者等がその記念建造を考へたことかも知れぬ。しかも、實際に之を造り成した者は、眞面目な、神聖な、美術家であり、藝術

5
3

家であり、前世を貫通して審美の世界に生くる人々の業である。

如何なる主義、理想が行はるゝ世の中となつても審美の世界を破るものは人類永遠の敵である。藝術家は少くとも「真」の世界、「善」の世界、「美」の世界を包含したる全勝の世界に生きんとする者である。ミケランジェロは「単に繪畫を畫くことのみ巧みに且賢くあるのみでは足りない。自分の考へてゐる處に依れば、苟も畫家なる者に取つては、彼の生活法が善美なるのみならず、能ふべくば聖者の域にまで進むことが必要である。蓋し斯くあつて初めて聖靈が彼（畫家）の精神をインスパイアし得るのである。」と言つたさうであるが、これ一切の主義理想を超越し、全美を求めて止まざる藝術家の眞面目である。此の「聖者の域」にまで進まんとしつゝある藝術家の成した業を、區々たる主義に囚はれて居る野心の徒が、之を破壊し去るの權利と資格とが何處にあるか。

ナポレオンは好く獨逸を蹂躪し得ても、凱旋門を造るの能は自ら別である。ビスマルクは好く佛蘭西を討ち懲らし得たが、戰勝記念柱を設計考案するの力は自ら異なるものがある。ドレエクはビスマルクに頼まれて勝利の神を造つたかも知れぬが、彼が工作に對する時に於ては、最早やビスマルクも獨逸もない。たゞ永遠に遺るべき彼の技と工と心とに全美の世界を髣髴せしめんとしたのである。

抑々、ナポレオンが凱旋門を建てんと欲し、ビスマルクが戰勝記念柱を造らんとする、その記念物

を欲する限りなき憧憬は單に名譽心や、自尊心や、意地や、面當てから生じて來たのではなく、實に人類の誰もが求めて止まざる全美の世界の憧憬に外ならない。自らそれと氣が附かずに居るけれども、その心理の奥底を採れば、實に彼れ自らが及びもつかず、成しも能はざる所のものを求むる審美の心と永生の心とである。戰爭や政治や主義や議論に依つては永遠性を持つこと能はずして、こゝに永遠にして永遠の眞善美たる藝術の力に依つて、人間の求めて止まざる永遠の存在即ち永生を企圖せんとしたに外ならない。されば凱旋門も戰勝記念柱も、決して一ナポレオン、一ビスマルクの心を満足せしめんが爲めに造つたものではなく、之に依つて永遠の存在を希ふ人間萬人の心のなさしめたものである。永遠の存在とは眞善美そのものである。

藝術家の携つたものを破壊してはならぬ。よしそれが眞に眞善美の發現にあらずとするも、俗人が區々たる主義思想に依つて之を破壊してはならぬ。藝術家のなしたる建設は藝術家自身をしてその不満な點を破壊せしめよ。藝術家のなしたるもの不能にして、缺點があり、全美でない時には、又永遠性が具はらぬものである時には、そのもの自身が日月の経過と共に壞滅し去ること、ジョン、ラスキ

ンが説くところ正に眞理である。獨逸の政治を覆さんとするコンミニュニストは獨逸の敵であるか、獨逸の戰勝記念柱を破壊せんと

するコンミニュニストは、人類共同の敵である。

第一六 エルザス・ロートリンゲン

普佛戦争に勝つた獨逸は、多年の宿望を達して、エルザス・ロートリンゲンの二州を奪取した。その後苦心慘憺兩州獨逸の努力をなしたが、此の努力は最後まで失敗したと言つて宜しい。此の兩州を獨逸化することは、阿弗利加の獅子を捕へて來て馴化するよりも骨の折れる仕事であつた。大戰が勃發すると、此の二州の形勢が兎角ごとくし勝ちであつたので、獨逸政府も非常に苦心し、カイゼルも自ら此地に臨んで、融和の策を廻らしたがどうもうまく行かなかつた。

カイゼルは大戦の初期、或時ストラスブルグに於て演説して、斯かる國家の大事の場合に對しては是非共上下和合一致を必要とする。一切の私的感情を捨てて、此の際獨逸帝國の爲めに協力一致して貫はなければならぬと泣きを入れ、さて一方に少しは脅しを見せるつもりで「若しこれ程誠意を以て希望するにも拘らず、なほ且つ不穩の態度を示すに於ては、自分にも考慮することがある。即ち自分他の半面を示すの外餘儀はない」と言ひ、暗に若し不穩の行動あれば、武力を以てしても強制壓迫を加へて見せると言ふことを言つた。

その翌日のことである。ストラスブルグの勞働者は大デモンストレーションを行ひ、大きなカイゼ

5
3

ルの人形を拵へて之を先頭に押し立て、市内を練り歩いた。そのカイゼルの像を見ると、首が前後になつてゐた。身體は正面を向いてゐるが顔は背後に振り向いてゐる。而して説明書きをして曰く「カイゼルの半面を見よ」と。斯の如きがストラスブルグ氣質で、どうしてもカイゼルの手にも負へないものであつた。

本來を云ふと、エルザス・ロートリンゲン二州は獨逸領であつた。中世紀に於ては全く獨逸の所領であつて、住民も獨逸人が多數であつた。それが三十年戦争の結果、ウエストファリアの媾和に依つて兩州の大部は佛國の所有となつた、此の時に於ても、兩州の首府であつたストラスブルグは獨逸領として取残されてゐたのであるが、ルイ十四世が之を奪ひ取つてしまつて、ス市をも佛領としたのである。斯くして佛國は兩州馴化に努力し、二百餘年を経たる結果は、佛人が多數生活し、言語も佛語を使用するやうになつた。而して佛蘭西大革命後は佛蘭西の自由思想が徹底し、兩州の住民は全く佛蘭西化して佛蘭西を戀ふやうになつた。

普佛戦争の結果ビスマルクは遮二無二此の兩州を取り返した。ビスマルクが、之は元來獨逸領である。而して軍事上重要な地點にして、獨逸に取りてはなくてはならぬ要地である。ナポレオンの大帝及びナポレオン三世が獨逸を脅かしたのも此の兩州の關するところ根本の因となつてゐるのではな

いかと云ひ、モルトケ等の斷々乎たる要求の下に之を手に入れた。此の時のビスマルクの要求した口吻とその理由とは、此の兩州の歴史及び此の兩州が佛領なるが爲めに、獨逸の國運が脅やかされた事實に依りて、決して無理な要求とは云へなかつた。寧ろ至當の要求であつたのである。

しかし、獨逸にとつて、然く重要な土地である以上は、佛蘭西に取つても亦非常な大切なものであつたので、こゝに大談判となつた。怒りつほい剛情なビスマルクは、例の頑固振りを發揮して、遮二無二ベルフォル市、メッツ市、ストラズブルグ市を奪取しようとした。ビスマルクの此の頑強な要求に對して、チエールはもう捨鉢になつて「斯の如きは媾和にあらずして脅迫である。脅迫に依つて吾等を壓せんとするものならば勝手にするがよい。戦はんとなつて飽くまでも戦へ。佛國全土を蹂躪せんと欲せば之をなしても宜しい。我々は最後の一人を殺すまで抗戦しても、斯の如き脅迫的屈辱的要求に應ずることは出来ぬ」と頑張つた。流石のビスマルクも此の泣言半分の抗議には少しばかり同情の念が湧いて來たと見えて、

「それではベルフォル市だけは佛蘭西に返してやらう。その代り正式の行列を以てプロシヤ軍の巴里入城を許せ」と出た。プロシヤ軍の巴里入城はこれも一大屈辱である。しかも佛國はベルフォル市の同胞を救はんが爲めに、此の屈辱を忍んで、

5
3

「宜しい、巴里入城は甘んじて傍觀しよう」と言ふことで、ベルフォール市だけは獨領たることを免れた。その代りに、獨逸の全軍は正々堂々の行列を作つて、巴里入城の大壯觀を演じた。例の鴛鳥歩調でのさばり放題にのさばつて、巴里市民の腹の中をむかつかせた。

其後此の兩州の馴化に苦心したが、多年佛蘭西の自由思想を呼吸した州民は、どうしても獨逸の軍國主義の下に甘んずることが出来ず、折もあらば佛國に歸順せんとの心が燃えてゐた。女などは獨逸人と結婚することを全然拒絶するやうになつた。獨逸の役人軍人等は悉く平民から嫌はれた。獨逸領になるといふことに決定した時、兩州から十萬の人間が佛蘭西に移住した。兩州に獨逸の徴兵検査制度を施行しようとした時に、一萬二千の壯丁が佛蘭西に移籍した。斯くして獨逸死の國難が事々に明瞭に現はれて來た。斯くして列強の眼は、此の二州がやがて歐洲平和の攪亂の原動力となるにあらざるやとの疑ひを抱くやうになり、一方には之を佛國領とすべしと云ふ議起り一方には中立國とすべしと云ふ議論出で、又一方にはもつと具體的になつて兩州の民に人民投票を行はして、その歸順する所と定むべしと云ふ議論も出た。

しかしビスマルクは、若し然く二州の民が此の土地を嫌ふに於ては、此の民をボーゼンに移し、ボーゼンの民を此の二州に移すばかりであると嘯き、フリマン、トライチケ、ベヒマン男爵の如き、悉く

兩州の中立又は佛領とすることに絶對的に反對した。獨逸としては此の兩州を全く軍事上から見て手放すことが出来ない腹をきめてゐたので、その民の歸順如何の如きは寧ろ眼中に置かなかつたのだと見る方が至當であらう。兩州獨化の困難についての逸話としては、嘗てカイゼルがメツツに行つた時に「カイゼル萬歳」と稱呼したものは、之が爲めに雇はれた獨逸人ばかりで、市民は悉くこれを冷笑したと云ふ事實でもわかる。

斯の如きいきさつの下にあつたエルザス・ロートリンゲンの二州は、再び佛蘭西の手に歸したが、之に依つて果して兩州の民が幸福たり得るや否やは疑問である。自ら立ち得ないものは常に翻弄の玩具とされる。小粒でも白耳義人は自立の意氣込がある。兩州の民が眞に幸福ならんと欲せば、佛蘭西に據る心も、獨逸に據る心も、どちらも捨てて自立の意氣を示さねばならぬ。何時迄も戰勝國の戰勝の證文代りに左右にやり取りされてはたまつたものでない。爾が中立國たり得るや否やは列國の意中如何にあるにあらずして、爾自身の意氣込み如何にあるのである。

——(大尾)——

5
3

5
3

昭和五年八月十五日發行
昭和五年八月二十五日發行

不許複製



發行所

東京日本橋東京驛東口角
振替東京七七二一〇

萬里閣書房

新興ドイツ魂 奥付

定價 二 圓

著者 池田 林 儀

發行者 小竹 卽 一

印刷所 共同印刷株式會社

製本所 共同印刷製本部

萬里閣書房發行目錄

後藤朝太郎著	支那行脚記	總布木版七度刷裝 四六判四七〇頁	定價 二・九〇 送料 一・四〇
坂正臣校閱	明治大正勅題歌集	紫羽二重表紙上製 四六判三八三頁	定價 二・三〇 送料 一・二〇
永井柳太郎序	帝國議會雄辯史	脊皮クロス上製 四六判六〇六頁	定價 二・八〇 送料 一・四〇
鳥居龍藏著	滿蒙の探查	總布ホブリン裝 四六判五五〇頁	定價 三・五〇 送料 一・四〇
鳥居幸子著	小さき家の装ひ	總布金箔入上製 四六判二七八頁	定價 一・五〇 送料 一・〇〇
後藤朝太郎著	支那綺談 阿片室	鳥ノ子木版七度刷裝 四六判五〇〇頁	定價 二・五〇 送料 一・二〇
生方敏郎著	食後談笑	鳥ノ子木版八度刷裝 四六判六四〇頁	定價 二・九〇 送料 一・四〇
清澤湧著	黒潮に聽く	總クロス金文字入 四六判六〇〇頁	定價 二・八〇 送料 一・二〇
メイ・牛山著	近代美容法	總クロス上製 四六判三三六頁	定價 一・八〇 送料 一・二〇
東京日日編	戊辰物語	鳥ノ子木版十度刷裝 四六判三六二頁	定價 二・〇〇 送料 一・〇〇

萬里閣書房發行目錄

工學博士 伊東忠太著	木片集	鳥ノ子木版六度刷裝 四六判五八〇頁	定價 三・〇〇 送料 一・四〇
山路愛山著	山路愛山選集 第一卷 現代金櫃史	脊皮クロス金文字入 四六判七三六頁	定價 三・〇〇 送料 一・六〇
山路愛山著	山路愛山選集 第二卷	脊皮クロス金文字入 四六判七二六頁	定價 三・〇〇 送料 一・六〇
山路愛山著	山路愛山選集 第三卷 孔子論	脊皮クロス金文字入 四六判七五四頁	定價 三・〇〇 送料 一・六〇
法學博士 信夫惇平著	明治秘話 二大外交の真相	總クロス金文字入 四六判五二八頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
柳原白蓮著	筑紫集	鳥ノ子木版廿度刷裝 四六判五四〇頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇
櫻井大路著	人相の秘鍵	總クロス金文字入 四六判四四四頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
高木乘著	新選組始末記	鳥ノ子木版八度刷裝 四六判四三四頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
子母澤寛著	橄欖山上疑問の錦旗	總クロス金文字入 四六判四四四頁	定價 二・〇〇 送料 一・四〇
酒井勝軍著	人問	總布木版五度刷裝 四六判五三〇頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇
理學博士 石川千代松著	人問	總布木版五度刷裝 四六判五三〇頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇

5
3

萬里閣書房發行書目録

宮田孝次郎著	佳味 飯と漬物嘗物三種	總布木版數度刷裝 四六判二六〇頁	定價 一・〇〇 送料 一・〇〇
酒井勝軍著	神州天子國	鳥ノ子木版六度刷裝 四六判五六二頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇
武井武雄著	武井武雄手藝圖案集	總布金箔入上製 キク判二二〇頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇
江原小彌太著	命經	總布木版數度刷裝 四六判五七〇頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇
小野賢一郎著	陶器を中心に	鳥ノ子木版八度刷裝 四六判四三四頁	定價 三・〇〇 送料 一・四〇
後藤朝太郎著	秘談 青龍刀	總布木版數度刷裝 四六判四六〇頁	定價 二・三〇 送料 一・四〇
河原萬吉著	日本情痴集室町鎌倉篇	總布木版數度刷裝 四六判五四四頁	定價 二・〇〇 送料 一・四〇
高村光雲著	光雲懷古談	總布木版數度刷裝 四六判七三〇頁	定價 三・五〇 送料 一・六〇
門脇陽一郎著	戲曲 お坊ちやん	總布數度刷裝 四六判三八〇頁	定價 一・五〇 送料 一・二〇
米澤順子著	長篇小説 毒花	總布數度刷裝 四六判五〇八頁	定價 一・八〇 送料 一・四〇

萬里閣書房發行書目録

理學博士 石川千代松著	人間不滅	總布木版數度刷裝 四六判五四一頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇
江原小彌太著	完成作 新約(上卷)	總布木版數度刷裝 四六判六三八頁	定價 二・八〇 送料 一・四〇
後藤朝太郎著	支那縱談 眠れる獅子	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判五八六頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇
醫學博士 岡田道一著	スポーツ衛生	總布木版數度刷裝 四六判二二七頁	定價 一・〇〇 送料 一・〇〇
子母澤寛著	新選組遺聞	總布木版數度刷裝 四六判四〇六頁	定價 二・〇〇 送料 一・四〇
眞山青果著	戲曲 乃木將軍	總布木版數度刷裝 四六判四〇八頁	定價 一・八〇 送料 一・二〇
東京府農會技師 宮田孝次郎著	野菜の栽培調理(上)	總布木版數度刷裝 四六版五一四頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
法學博士 尾佐竹猛著	夷狄の國へ <small>幕末遣外使節物語</small>	總布木版數度刷裝 四六版三八四頁	定價 一・八〇 送料 一・〇〇
篠田敏造著	増補 幕末百話	總布木版數度刷裝 四六版五〇九頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
室井きさ子著	母性愛日記	總布木版數度刷裝 四六版三八〇頁	定價 一・八〇 送料 一・〇〇

5
3

萬里閣書房發行書目録

飯塚茂著	南洋の雄姿	總クロース金文字入 四六版六三〇頁	定價 送料	三・〇〇 一・六〇
東野善一郎著	天誅組天誅録	鳥ノ子木版數度刷裝 四六版三三〇頁	定價 送料	一・五〇 一・〇〇
河野桐谷編	漫談 江戸は過ぎる	鳥ノ子木版數度刷裝 四六版五四〇頁	定價 送料	二・五〇 一・四〇
醫學博士 岡田道一著	受驗生の健腦法	總クロース金文字入 四六版二三三頁	定價 送料	一・〇〇 八〇
東京府農會技師 宮田孝次郎著	野菜の栽培調理(下)	總布木版數度刷裝 四六版三九五頁	定價 送料	一・五〇 一・〇〇
星野竹里著	貯金王 漫畫 探訪	總クロース金文字入 四六版四二一頁	定價 送料	一・五〇 一・〇〇
東日新聞記者 和田邦坊著	人間大倉喜八郎	鳥ノ子木版數度刷裝 四六版三七七頁	定價 送料	二・〇〇 一・二〇
横山貞雄著	明治大正昭和	總布木版數度刷裝 四六版五九八頁	定價 送料	二・八〇 一・六〇
東日新聞社會部長 小野賢一郎著	記者生活二十年の記録	總布木版數度刷裝 四六版五九八頁	定價 送料	二・八〇 一・六〇
柳宗悅著	工藝美論	鳥ノ子木版輕裝 四六版一一〇頁	定價 送料	一・五〇 一・六〇

萬里閣書房發行書目録

新山虎治著	肚の人川村竹治	總クロース金文字入 四六版四二〇頁	定價 送料	二・〇〇 一・二〇
福富織部著	臍(へそ)	總布木版數度刷裝 四六版三九〇頁	定價 送料	一・八〇 一・二〇
高岡辰子著	照葉始末書	鳥ノ子木版數度刷裝 四六版四三二頁	定價 送料	一・八〇 一・二〇
有馬純清著	心靈界の驚異	總クロース 四六版三八一頁	定價 送料	一・五〇 一・〇〇
山内侯爵家史編纂部 平尾道雄著	坂本 龍馬 海援隊始末	總布木版數度刷裝 四六版四〇九頁	定價 送料	二・〇〇 一・二〇
農學士 原澄次著	應用優生學	總布木版數度刷裝 四六版六二〇頁	定價 送料	二・八〇 一・二〇
東京朝日新聞記者 田原春次著	アメリカ大學案内	總布木版數度刷裝 四六版三〇一頁	定價 送料	一・八〇 一・〇〇
伯國大使館一等書記官 野田良治著	調査 三十年 大アマゾニヤ	總布木版數度刷裝 四六版四四七頁	定價 送料	二・六〇 一・二〇
海軍少佐 石丸藤太著	倫敦軍縮會議へ	總布オフセット刷裝 四六版五七二頁	定價 送料	二・五〇 一・四〇
九重左近著	江戸近世舞踊史	總クロース金文字入 菊版 五九〇頁	定價 送料	五・五〇 一・八〇

5
3

5
3

Table with multiple columns and rows of text, likely a ledger or record book. The text is faint and difficult to read due to fading and bleed-through from the reverse side. The table structure includes several columns and rows of entries, possibly representing financial or administrative records.

586
312

